

IBM Operational Decision Manager v8.6

ルール・ガバナンス・ガイド

～実践ガバナンス・フレームワーク～

目次

目次	2
1. はじめに	4
1.1. ガイドの目的.....	4
1.2. ガイドの構成.....	5
2. ガバナンス・フレームワーク	6
2.1. ガバナンス・フレームワークの概要	6
2.1.1. 変更管理・リリース	6
2.1.2. Decision Service（複数ルールの一元管理が可能）	7
2.1.3. 承認者・作成者などのロールが事前定義されている（フレームワークとして）	7
3. ルール・ガバナンスの実践	9
3.1. 想定シナリオの紹介.....	9
3.1.1. IT ユーザーによる変更を含む運用シナリオ	12
3.1.2. ガバナンスをはじめる準備	14
3.2. Rule Designer から Decision Center へのデシジョン・サービスの公開	14
3.2.1. デシジョン・サービスの指定	14
3.2.2. Decision Center への公開	15
3.3. Decision Center Business Console へのログイン.....	19
3.3.1. ログイン	18
3.3.2. モードの切り替え.....	18
3.4. リリースの作成.....	20
3.5. 変更アクティビティ	23
3.5.1. 変更アクティビティの作成	23
3.5.2. 変更アクティビティにおける作業.....	25
3.5.3. 変更アクティビティの完了	27
3.5.4. 変更アクティビティの承認	28
3.5.5. 変更アクティビティのまとめ	29
3.6. 検証アクティビティ	31
3.6.1. 検証アクティビティの作成	31
3.6.2. 検証アクティビティにおける作業（テスト計画作成）	33
3.6.3. 検証アクティビティにおける作業（テストの実施）	34
3.6.4. 検証アクティビティの完了	37
3.6.5. 検証アクティビティの承認	38
3.6.6. 検証アクティビティのまとめ	38

3.7.	リリースの完了	40
3.7.1.	リリースの承認と完了	40
3.7.2.	リリースのまとめ	42
3.8.	タイムライン	43
3.9.	Rule Designer での同期と変更	45
4.	ガバナンス・フレームワークにおけるユーザー登録とアクセス制御	47
4.1.	アクセス権の設定概要	47
4.1.1.	アクセス権の設定概要	47
4.1.2.	Business Console のデフォルトのアクセス権	48
4.1.3.	Enterprise Console のデフォルトのアクセス権	48
4.2.	ユーザーとグループ	49
	新規グループ/新規ユーザーの作成	49
4.3.	ロール	53
4.3.1.	定義済みグループ (ロール)	53
4.3.2.	ロールとユーザーおよびグループのマッピング	53
4.4.	Business Console へのユーザー登録	56
4.4.1.	ユーザー・ファイルの作成	56
4.4.2.	Ant タスクによるユーザー登録	57
5.	新規ロールによるアクセス制御 (オプション設定)	59
5.1.	新規ロールの作成	59
5.2.	Enterprise Console におけるグループ(ロール)の設定	59
5.3.	ブランチ・セキュリティー	62
5.4.	パーミッション	64
6.	テスト・スイートの実行	68
6.1	Business Console でのテストの実行	70
7.	サーバーへの配布	74
7.1.	サーバーの管理	74
7.2.	Business Console での配布構成の作成	76
7.3.	Business Console からサーバーへの配布	78
8.	参考資料	80

1. はじめに

当資料では、IBM Operational Decision Manager v8.6 を効果的に利用する際に必要となるルール・ガバナンスについての解説を行います。

1.1. ガイドの目的

ビジネスルール管理システムの最大のメリットは「変化対応力」

ビジネスルール管理システムを利用する上での一番のメリットは、ビジネスの変化に素早く対応できるようになることです。そのために、IBM Operational Decision Manager は、ビジネスルールの開発と実行環境を提供する IT ユーザー向けの Decision Server に加えて、ビジネスルールの管理環境を提供する業務ユーザー向けの Decision Center を持っています。Decision Center を利用することで、業務ユーザーの考えるビジネスルールの変更をシステムに直接反映することができ、ビジネスの変化へのアジャイルな対応が実現できます。

ルールの変更にはガバナンスが必要

ビジネスルールの変更は、ビジネスの戦略上の決定、ビジネスポリシーに従って管理された状態で行う必要があります。複数のユーザーによってアドホックにルールが変更された場合、その変更がビジネスに却って悪影響を及ぼすことも考えられます。

変更の管理に重要な要素としては、変更の目的(Why)が明らかになっていること、変更の対象(What)が明らかになっていること、変更のタイミング(When)が明らかになっていること、そしてその変更に関与する人(Who)が明らかになっていることが上げられます。これらが整合して初めて「管理された」変更であるといえるでしょう。

実践的なガバナンス・ガイドの提供

ルール・ガバナンスについての解説はさまざまな場所で行われていますが、IBM Operational Decision Manager の製品を利用することを想定したガイドはあまり見受けられません。

このガイドでは、IBM Operational Decision Manager V8.5 により新たに加わったガバナンス・フレームワークの機能を最大限に活用しながら、ガイドの読者が実践的にルール管理を行うようになることを目的としています。

ビジネスルール管理システムを継続的に成長させて、よりビジネスに貢献できるシステムを育て上げていきましょう。

1.2. ガイドの構成

当ガイドでは、続く 2 章において、ガバナンス・フレームワークの思想、構成要素について解説しています。

その後 3 章において、想定シナリオに基づいたルール・ガバナンスの実践を紹介しています。是非、サンプルの環境を用いてガイドに沿ったオペレーションを体験してください。2 章で説明されたルール・ガバナンスのエッセンスがより理解できるようになります。

また、ガバナンスの実践に必要なユーザー登録とアクセス制御については、4 章と 5 章で紹介しています。4 章は、3 章で行う内容を実現するための基本的な内容を、5 章はより踏み込んだアクセス制御を解説しています。

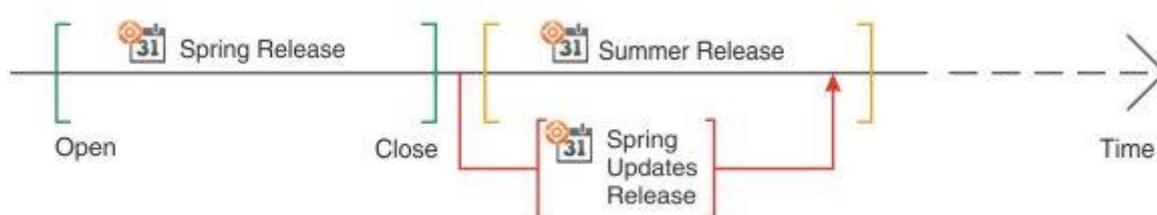
6 章のルールのテスト、7 章のルールの配布は、V8.5 よりも以前からある **Enterprise Console** の機能に加えて、V8.6 より加わった **Business Console** でのテストと配布について解説しています。ガバナンス・フレームワークと組み合わせて、変更されたルールをシステムに反映することができるようになります。

2. ガバナンス・フレームワーク

ODM を利用した開発の大きな特徴として、要件定義、設計、実装がほぼ同時に進行する点があります。ODM では、通常の要件定義で使用される記述内容を、そのままアクションルール、意思決定表といった形で実装します。そのため、ODM を利用した開発では、業務部門チーム、IT チームが連携して作業を進める必要があり、ガバナンスが効率的な開発に重要な要素となります。業務ルールは開発中にも状況に対応して変化するため、要件をあらかじめ整理するのは難しく、開発時には細かな粒度での作業を定義し、逐次変更を取り入れながらそれを繰り返していく必要があります。そのためアジャイルでの開発はルール開発では必須になります。

アジャイルのスプリントはこのリリース単位で構成します。リリースに基づいて変更管理するのがフレームワークの役割です。フレームワークでは、アジャイルの **Iteration** とリリースが連動します。

以下の図では **Spring, Summer** の各リリースがスプリントに対応しています。



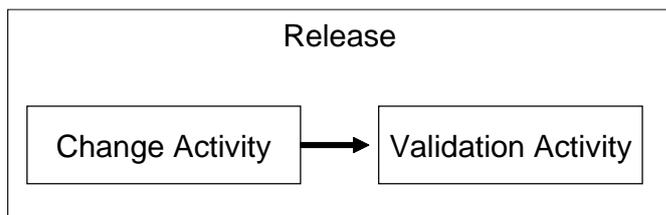
2.1. ガバナンス・フレームワークの概要

2.1.1. 変更管理・リリース

V8.5 以前のバージョンでは、ガバナンスの機能がルール構成要素単位での対応しかしていませんでした。変更とテストのログ、バージョン管理はできましたが、変更作業と要件との対応は別途外部の機能を使用する必要がありました。

そのため、各作業を要件と関連付けて管理することができず、なぜ変更が入ったかを明確にトレースできない、関連する作業が把握できないなどの問題がありました。

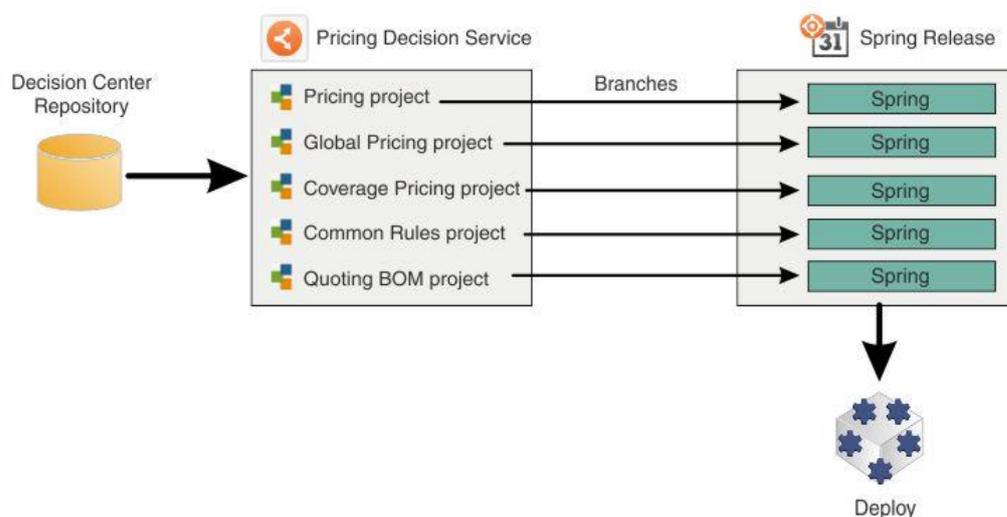
新しいバージョンでは、「リリース」の概念を導入し、それぞれの変更作業と検証作業を要件と結びつけた形で管理することができます。



2.1.2. Decision Service（複数ルールの一元管理が可能）

Decision Service の概念が導入され、関連する複数のルールを一元管理した形での進捗管理が可能となりました。これにより、従来業務ユーザーにはわかりづらかったプロジェクト間の依存関係を考慮した修正作業を簡便に進めることができるようになりました。

例えば、次の図では、Pricing デシジョン・サービスの Spring リリースが、このデシジョン・サービスに入っている各プロジェクトの Spring ブランチを含み、一元管理されることを示しています。



2.1.3. 承認者・作成者などのロールが事前定義されている（フレームワークとして）

作業を進めるうえでポイントとなる作業の期限や作成者、承認者を要件単位で事前定義することができるようになり、業務ユーザー、IT ユーザーの役割が明確になりました。事前定義された内容は作業者のワークのビューに出てくるため、より効率的に作業を進めることができます。また、この機能により、要件ごとのアクセスコントロールなどの定義が簡便になります。

2.1.4. ODM で提供される変更に関する機能の比較

ODM ではルールの変更のためのツール／コンソールが複数ありますが、それぞれで可能な変更内容やインターフェース、管理機能に違いがあります。対象ユーザーや要件に応じて、適したツールを選択します。Rule Designer はルールの処理内容に関する高度な編集を、Enterprise Console はブランチなどの管理を、Business Console は業務ユーザーの利用に適した制限下での安全な編集機能を、特に提供しています。

各ツール／コンソールによる機能の違いを下表にまとめます（表中の○は「実施可能」、×は「実施不可／適さない」ことを示します）

	Rule Designer	Enterprise Console	Business Console ガバナンス・フレームワーク無し	Business Console ガバナンス・フレームワーク使用
	ルール・フローの変更	○	×	×
データ型の変更	○	×	×	×
個別のルールの変更	○	○	○	○
Rule Solutions for Office を利用した変更と反映	×	○	○※1	○※1
ルールのテスト	○※2	○	○	○
ルールの配布	○	○	○※3	○※3
チームによる変更（同期）	○※4	○	○	○
変更作業の担当者・承認者・期限などの管理	×	×	×	○

※1: Enterprise Console を併用します。

※2: デバッグ機能など詳細な問題判別を利用可能です。

※3: 配布先のサーバー定義などの設定を事前に IT 担当者が準備しておき、その範囲内で安全に配布を行います。

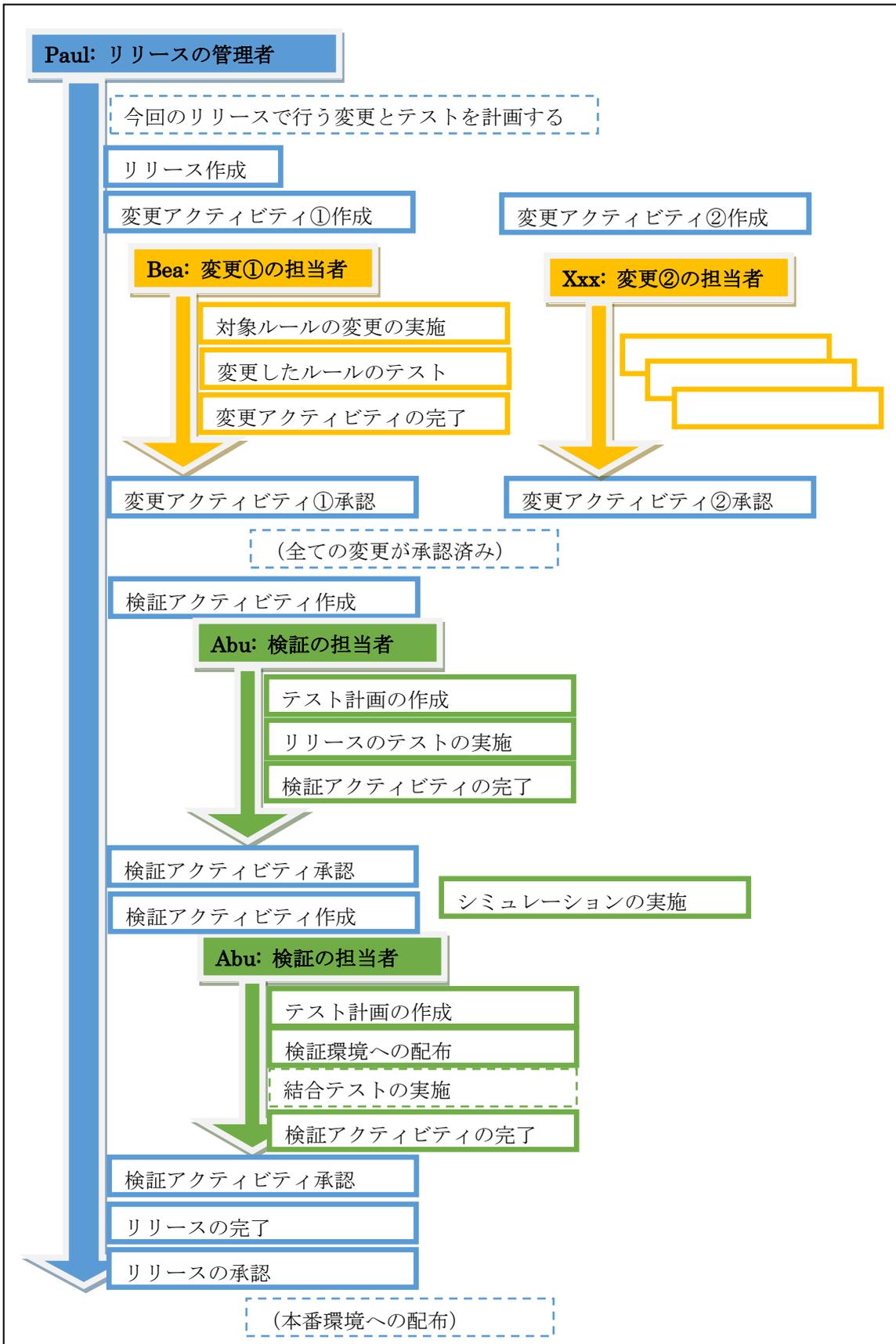
※4: リポジトリとして Decision Center と接続できる必要があります。

3. ルール・ガバナンスの実践

Decision Center Business Console を使用したテスト・スイートの作成・実行手順を記述します。

3.1. 想定シナリオの紹介

以下の各担当者がロールを保持する想定シナリオとします。このシナリオを実現するための設定方法について解説していきます。



以下のように担当者ごとの作業内容を分けるものとします。

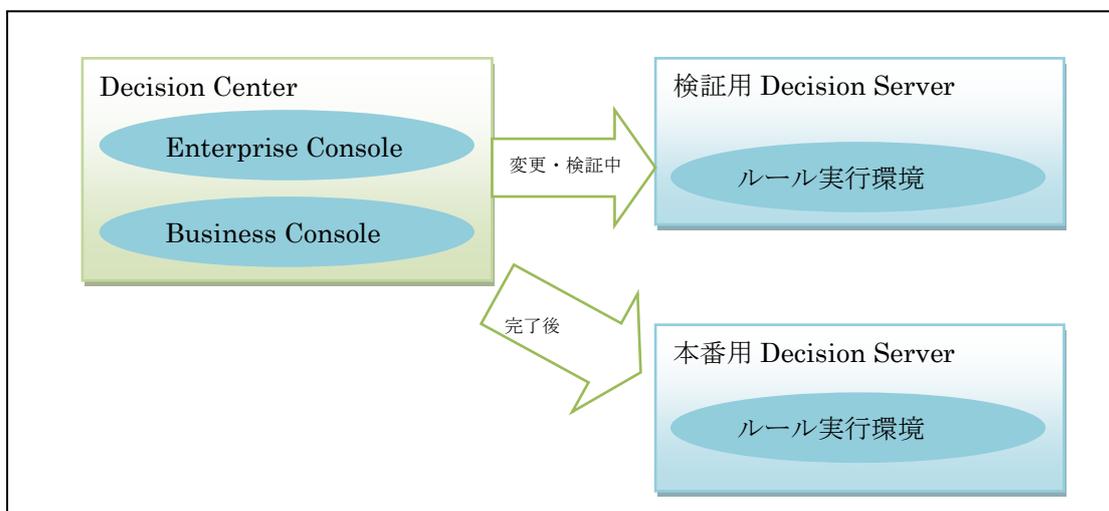
Paul：リリースの所有者・承認者

Bea：ルール編集者

Abu：テスト実施者

作業内容	Paul	Bea	Abu
リリース作成	✓		
変更アクティビティ作成	✓		
変更アクティビティ実施		✓	
変更アクティビティ完了		✓	
変更アクティビティ承認	✓		
検証アクティビティ作成	✓		
テスト計画作成			✓
テスト実施			✓
テスト計画完了			✓
検証アクティビティ完了			✓
検証アクティビティ承認	✓		
リリース完了	✓		
リリース承認	✓		

また、基盤の構成としては、検証用（非実稼動）のルール実行環境と本番用（実稼動）のルール実行環境があり、変更・検証中のルールの実行には検証用環境を使用し、リリース完了後には本番環境に配布する想定とします。

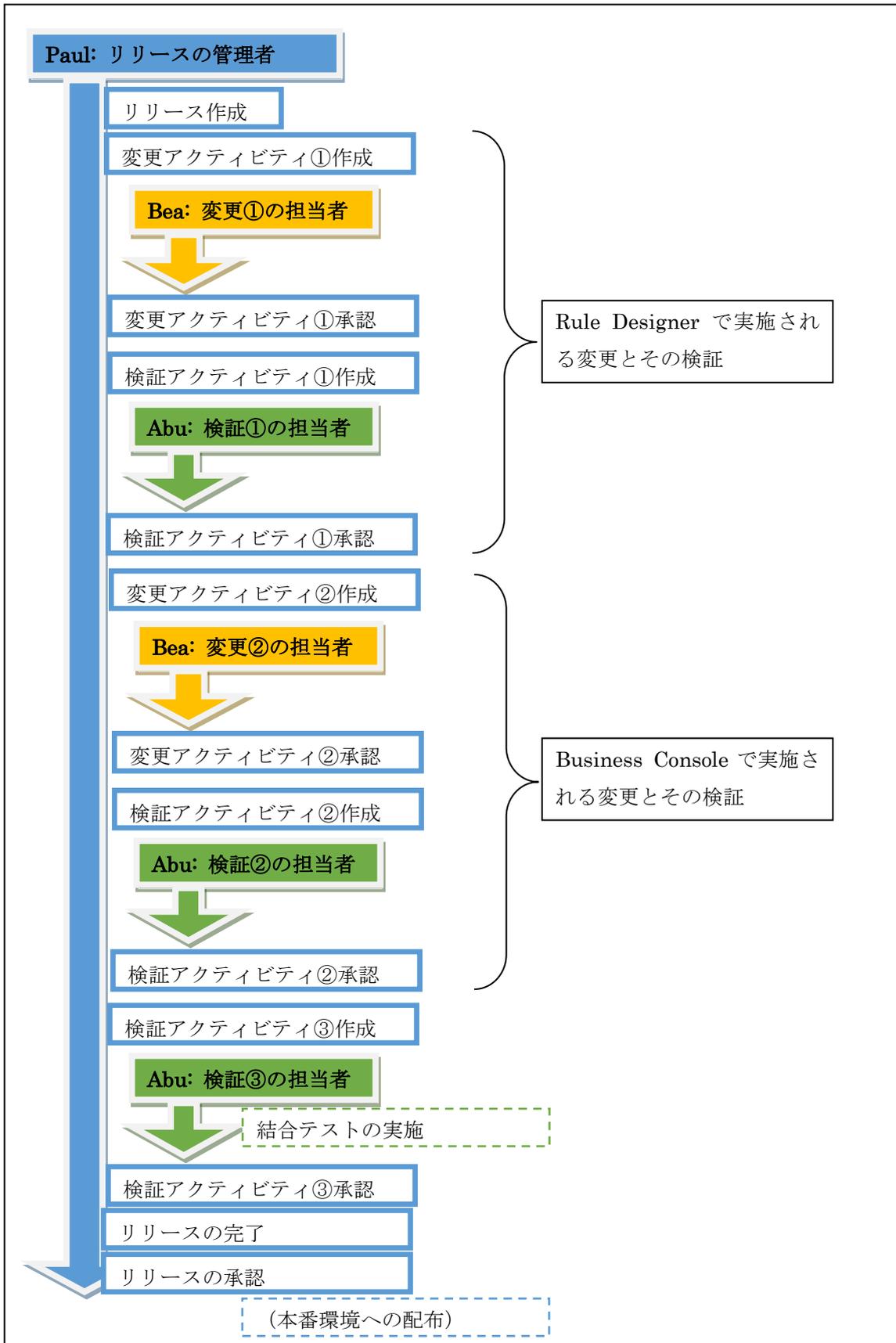


3.1.1.IT ユーザーによる変更を含む運用シナリオ

リリースでの変更内容が **Rule Designer** からの変更を含む場合は、最初に **Rule Designer** からの変更と同期を実施し、その後に **Business Console** で実施可能な変更を実施することをお勧めします。

Rule Designer からの変更が必要な場合としては、ルール・フローの変更や語彙 (**BOM**、**XOM**) に関する変更などがあります (実施方法は 3.9 節を参照)。

推奨のアクティビティの流れを下図にまとめます。



3.1.2. ガバナンスをはじめめる準備

ルール・ガバナンスの実践をはじめめる前には以下の点について、Enterprise Console や Business Console の構成を準備しておく必要があります。

- ・ユーザーの役割・・・ユーザーやグループの権限の設定しておきます。(4章参照)
- ・ルール実行環境 (Decision Server) の配布構成・・・ガバナンスの一連の流れの中でルールのデプロイまで実施する場合はそのための配布構成を用意しておきます。(7章参照)
- ・個別ルール単位やリリース単位でのテスト方針・・・Business Console でテスト・スイートを利用する場合は事前にシナリオ・ファイルとサーバー構成を準備します。(6章参照)

3.2. Rule Designer から Decision Center へのデシジョン・サービスの公開

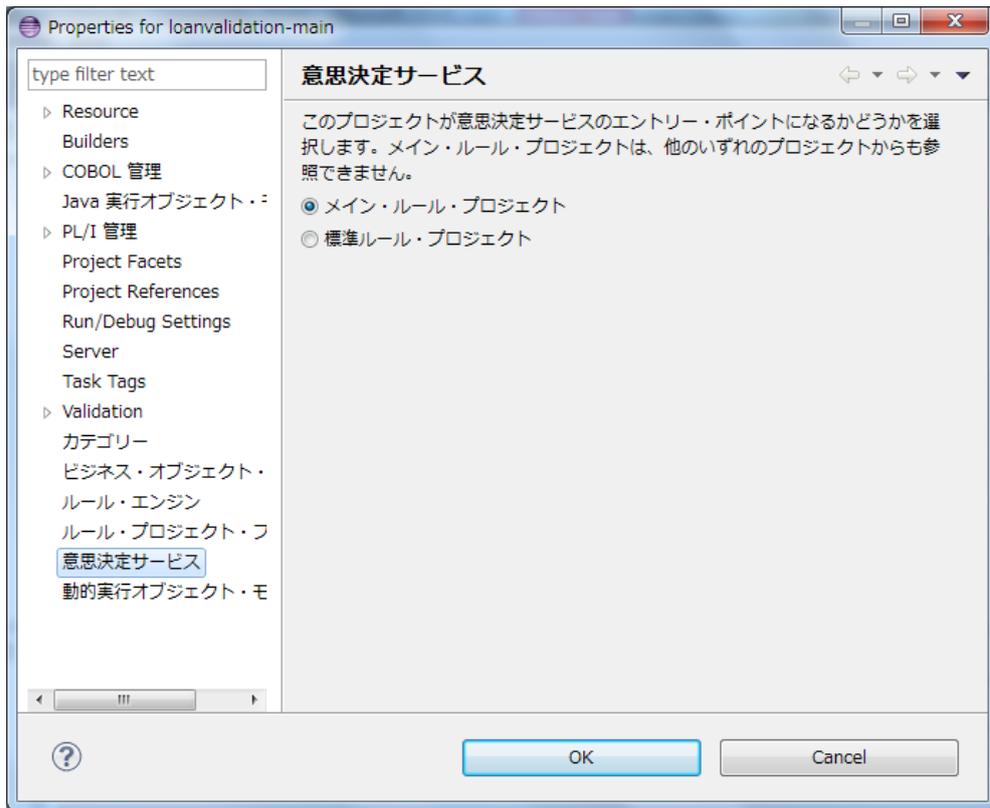
Rule Designer で開発したルール・プロジェクトをデシジョン・サービスとして Decision Center へ公開することで、ガバナンス・フレームワークでの管理対象に置くことができます。デシジョン・サービスの作成時に、初期リリースが自動的に作成されます。

3.2.1. デシジョン・サービスの指定

ガバナンス・フレームワークでは依存関係のあるルール・プロジェクトをデシジョン・サービスとして纏めて取り扱います。Decision Center へ公開する際には、デシジョン・サービスのトップとなるルール・プロジェクトを指定します。

対象のルール・プロジェクトの[プロパティ]から[意思決定サービス]を選択します。

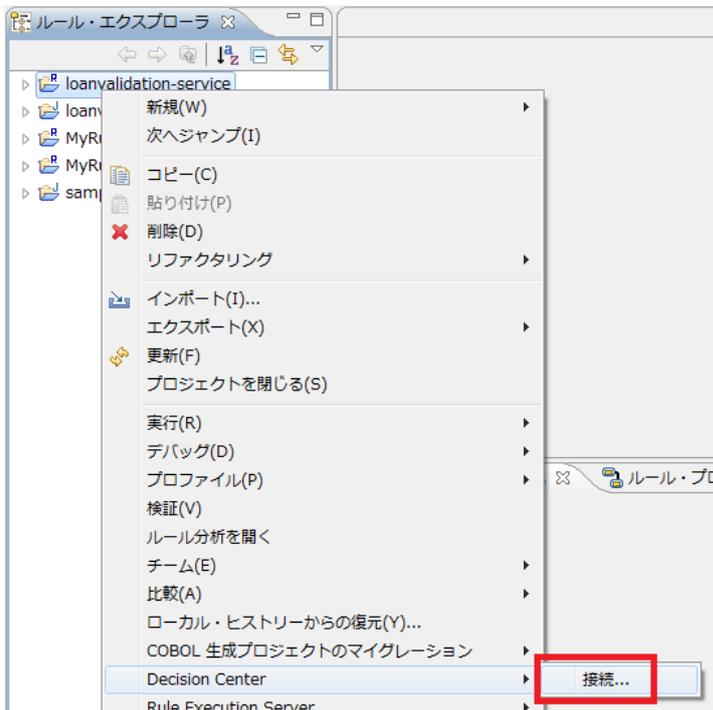
「メイン・ルール・プロジェクト」のラジオボタンが選択状態となっていることを確認します。



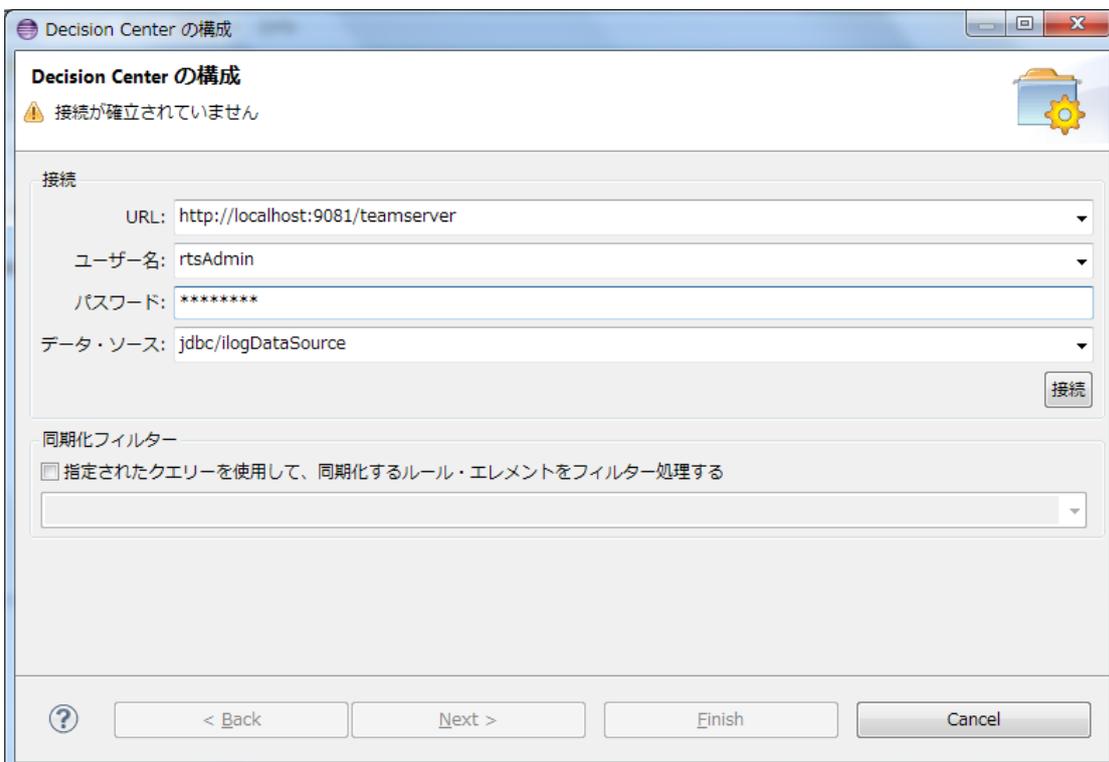
3.2.2. Decision Center への公開

ルール・プロジェクトを Decision Center へ公開する手順を記述します。デシジョン・サービスとして指定していると依存関係にあるルール・プロジェクトも同時に公開されます。

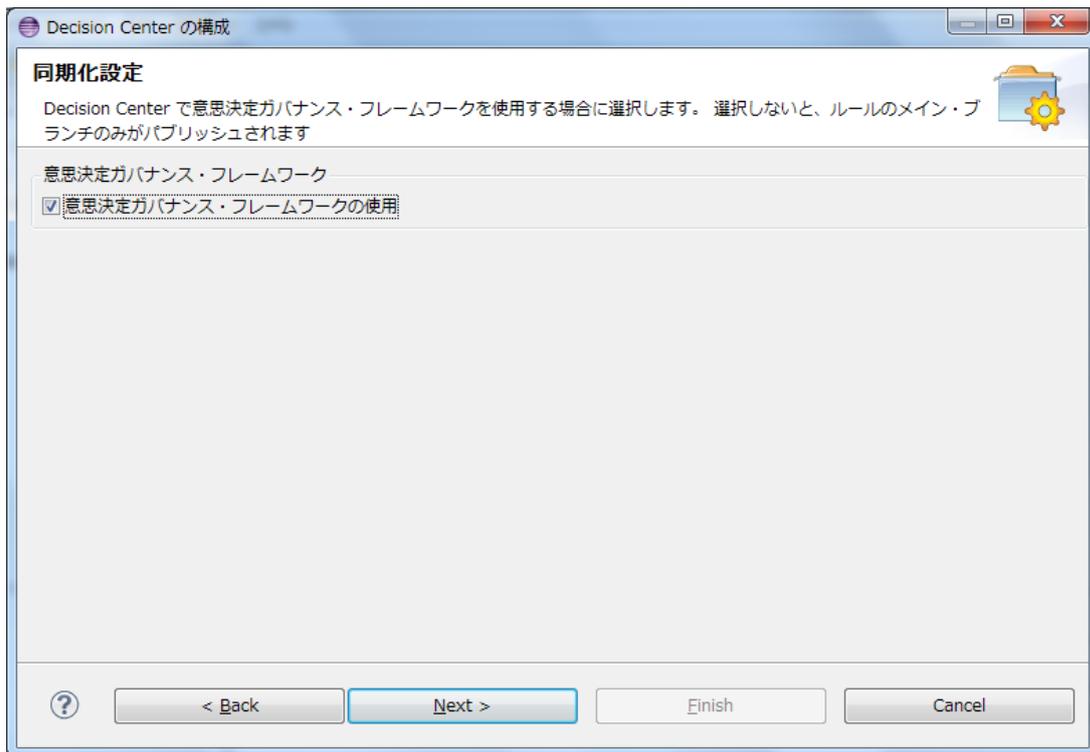
1. ルール・プロジェクトを選択し右クリックから[Decision Center]>[接続]を選択します。



2. Decision Center への接続情報を入力し、[接続]ボタンを押します。



3. [同期化設定]では「意思決定ガバナンス・フレームワークの使用」を選択し、[次へ]ボタンを押します。



4. 依存関係にあるプロジェクトがリストされるので公開対象のプロジェクトを確認し、[終了] ボタンを押します。
5. **Decision Center** へ意思決定サービスとしてルール・プロジェクトが公開され、ガバナンス・フレームワークが使用可能になっていることを確認します。

Decision Center のホーム・ページによるこそ

● プロジェクトでの作業

使用中のプロジェクト:

使用中のブランチ:

現在のアクション:

● 意思決定サービスでの作業

使用中の意思決定サービス:

使用中のブランチ:

現在のアクション:

● 意思決定ガバナンス・フレームワーク内での意思決定サービスの作業

使用中の意思決定サービス:

使用中のリリース:

現行の変更アクティビティ:

現在のアクション:

3.3. Decision Center Business Console へのログイン

Decision Center Business Console へはブラウザから以下の URL へアクセスします。

`http://<hostname>:<port_number>/decisioncenter/login`

ユーザーID とパスワードには、あらかじめ WAS 環境で定義したユーザー情報を使用します。
(「4. アクセス制御」を参照)



IBM

Decision Center | ビジネス・コンソール

ユーザー名:

パスワード:

ログイン状態を維持

ログイン

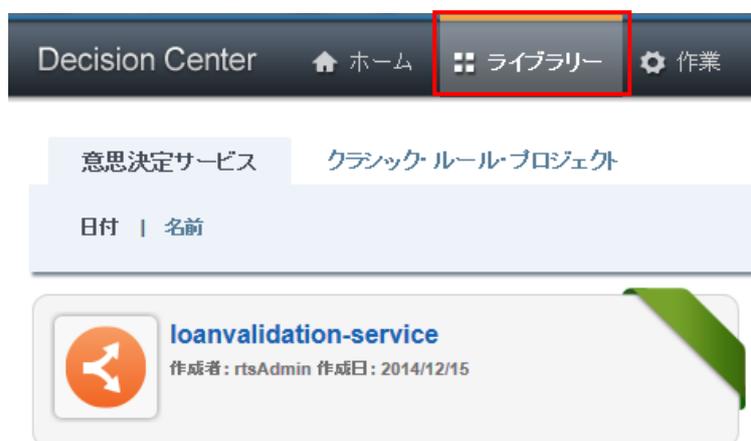
Licensed Materials - Property of IBM. © Copyright IBM Corporation 2000, 2013

3.4. リリースの作成

Rule Designer からデシジョン・サービスを公開した時点で、「初期リリース」が「完了」のステータスで作成されます。

これからガバナンス・フレームワークの管理下で変更を行っていくために、新規リリースを作成していきます。

1. ライブラリーから対象とするデシジョン・サービスを選択します。



2. 「リリース」タブで「+ (新規)」のアイコンを選択します。



3. 「リリースの作成」画面が表示されるので、以下の値を入力します。

- ・ リリース名：新規に作成するリリースの名称を指定します。既存のリリース名は使用できません。
- ・ ベースにする完成したリリース：リリースのベースとなるリリースを選択します。状況が「完了」している必要があります。
- ・ リリースの目標：ルール変更の目標を記述します。
- ・ 期限の指定：リリースの完了期限を指定します。
- ・ 所有者：リリースの所有者を指定します。
- ・ 承認者：リリースの「完了」を承認するユーザーを指定します。複数ユーザーを指定可能です。

必要な情報を入力したら「作成」ボタンを押します。

リリースの作成

リリースの名前を指定:

ベースにする完成したリリース: ⓘ

このリリースの目標を指定:

B I U |
 ≡ ≡ ≡ ≡ |
 A ▾ |
 ≡ ≡ ≡ ≡ |
 ↶ ↷ ↸ ↹ |
 ✍ |
 ✂

Update the minimum age of the borrower.

期限の指定:

このリリースの関与者の指定:

所有者:

承認者: + -

アクティビティーを含まない新規リリースが作成されました。

※新規リリースを作成すると自動的にスナップショットが生成されます。

続いて、リリースに対して必要なアクティビティーを作成していきます。

Decision Center ホーム ライブラリー 作業 Paul

loanvalidation-service > Spring Release スナップショットの取得 新規作成 タイムライン

アクティビティ ルール テスト 配布 スナップショット

すべて 期限 | 名前 | タイプ

アクティビティがありません。
 アクティビティを作成するには、「新規作成」ボタンをクリックしてください。

リリース ストリーム

作成者: Paul
 2014/12/15

▼ **目標**

Update the minimum age of the borrower.

▶ **リンクされたプロジェクト**

意思決定サービス loanvalidation-service

期限	2015/01/30
状況	進行中
所有者	Paul

▼ **承認者**

Paul	未レビュー
------	-------

3.5. 変更アクティビティ

変更アクティビティでは、リリースという、より大きいコンテキストの中で、同じ目標に向けて行われる作業を管理します。変更アクティビティにおいて、参加者のグループはルールを作成、変更、削除します。1つのリリースに複数の変更アクティビティを作成できます。

3.5.1. 変更アクティビティの作成

変更アクティビティの作成手順を記述します (3.1 の想定シナリオでの「変更アクティビティ作成」にあたるステップです)。

1. 対象リリースの画面右上より、[新規作成]>[変更アクティビティ]を選択します。



アクティビティがありません。
アクティビティを作成するには、「新規作成」ボタンをクリックしてください。

2. 「変更アクティビティの作成」画面が表示されるので、以下の値を入力します。
 - ・ アクティビティ名：新規に作成するアクティビティの名称を指定します。既存のアクティビティ名は使用できません。
 - ・ 期限の指定：アクティビティを完了させるまでの期限を指定します。
 - ・ 所有者：変更アクティビティの変更内容を確認し、承認へ進めるユーザーを指定します。
 - ・ 承認者：変更アクティビティの完了を承認するユーザーを指定します。
 - ・ 作成者：アクティビティを実行するユーザーを指定します。指定されたユーザー以外はアクティビティでのルール編集や作成者の状況変更を実施できません。(管理権限を持つユーザーは編集可能です)

必要な情報を入力したら「作成」ボタンを押します。

変更アクティビティ	ストリーム
リリース	Spring
デシジョン・サービス	loanvalidation-service
期限	2013/07/15
状況	進行中
所有者	Paul
▼承認者	
Paul	未レビュー
▼作成者	
Bea	作業中

当シナリオでは、「My Change Activity」における作成者は”Bea”を指定しているため、ルール
の編集および作成者の状況の変更は”Bea”が実施します。

※変更アクティビティを作成すると自動的に初期スナップショットが生成されます。

Decision Center | ホーム | ライブラリー | 作業

loanvalidation-service > Spring Release > my change activity

ルール | テスト | 配布 | **スナップショット**

フィルター

初 1

初期スナップショット
作成者: Paul 作成日: 2014/12/15

3.5.2. 変更アクティビティにおける作業

変更アクティビティの「作成者」として指定されたユーザーは、ルール更新を実行し変更アクティビティを期限内に完了させる必要があります。

※当シナリオでは変更アクティビティ「My Change Activity」の作成者に”Bea”が指定されています。

1. ユーザーは、変更アクティビティの「作成者」として自分が指定されているアクティビティを[作業]タブで確認します。



2. アクティビティの「変更アクティビティ」タブから、指定されている「目標」や「期限」を確認することができます。



「ルール」タブから変更対象のルールを開き、変更を実施します。変更内容のテストを変更アクティビティ内で行う場合は、「テスト」タブでテスト・スイートを実行します。

※テスト・スイートの実行については、「6.2 Business Console でのテストの実行」を参照。

3. 変更完了後に、作成者の状況を「作業中」から「作業の終了」に変更します。

変更アクティビティ | ストリーム

▼目標

リリース Spring

デシジョン・サービス loanvalidation-service

期限

状況 進行中

所有者 Paul

▼承認者

Paul 未レビュー

▼作成者

Bea 作業中

▼作成者

作業中

作業の終了

作業中

作成者の状況は自動的に「完了」となります。

変更アクティビティ | ストリーム

リリース Spring

デシジョン・サービス loanvalidation-service

期限 2013/07/15

状況 進行中

所有者 Paul

▼承認者

Paul 未レビュー

▼作成者

Bea 完了 ✓

3.5.3. 変更アクティビティの完了

変更アクティビティの「所有者」として指定されたユーザーは、ルール更新作業を確認し、変更アクティビティの状況を承認に進めます。

※当シナリオでは変更アクティビティ「My Change Activity」の所有者に”Paul”が指定されています。

「変更アクティビティ」の状況を「進行中」から「承認に進む」へ変更します。状況は自動的に「承認準備完了」に推移します。

The image shows two side-by-side screenshots of a web interface for managing change activities. The left screenshot shows the activity 'Change the minimum age of the borrower from 18 to 21' with a status of '進行中' (In Progress). A dropdown menu is open over the status field, showing options: '進行中', '承認に進む', and 'アクティビティのキャンセル'. A red arrow points from this menu to the right screenshot, which shows the same activity with the status updated to '承認準備完了' (Approval Preparation Complete). Other details like 'リリース: Spring', 'デシジョン・サービス: loanvalidation-service', '期限: 2013/07/15', '承認者: Paul (未レビュー)', and '作成者: Bea (完了)' are consistent between both views.

3.5.4. 変更アクティビティの承認

変更アクティビティの「承認者」として指定されたユーザーは、ルール更新作業を確認し、変更アクティビティを承認します。

※当シナリオでは変更アクティビティ「My Change Activity」の承認者に”Paul”が指定されています。

承認者の状況を「未レビュー」から「変更の承認」へ変更します。承認者の状況は自動的に「変更承認済」に推移します。変更アクティビティの状況は自動的に「完了」に推移します。

The image shows two side-by-side screenshots of a web application interface, illustrating the lifecycle of a change activity. Both screenshots have tabs for '変更アクティビティ' (Change Activity) and 'ストリーム' (Stream). The main heading is 'Change the minimum age of the borrower from 18 to 21'.

Left Screenshot (In Progress):

- リリース (Release): Spring
- デシジョン・サービス (Decision Service): loanvalidation-service
- 期限 (Deadline): 2013/07/15
- 状況 (Status): 承認準備完了 (Approval preparation complete)
- 所有者 (Owner): Paul
- 承認者 (Approver): Paul (with a dropdown menu open showing options: 未レビュー (Not reviewed), 未レビュー (Not reviewed), 変更の承認 (Approve change), 変更の拒否 (Reject change))
- 作成者 (Creator): Bea (with a green checkmark and '完了' (Completed))

Right Screenshot (Completed):

- リリース (Release): Spring
- デシジョン・サービス (Decision Service): loanvalidation-service
- 期限 (Deadline): 2013/07/15
- 状況 (Status): 完了 (Completed)
- 所有者 (Owner): Paul
- 承認者 (Approver): Paul (with a green checkmark and '変更承認済み' (Change approved))
- 作成者 (Creator): Bea (with a green checkmark and '完了' (Completed))

A red arrow points from the dropdown menu in the left screenshot to the '承認者' field in the right screenshot, indicating the transition from the selection phase to the completion phase.

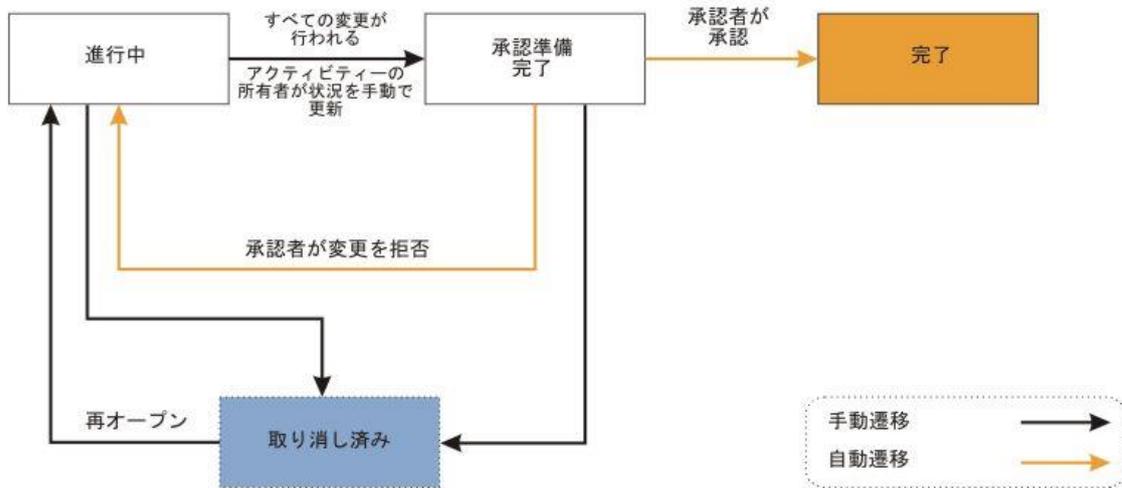
変更アクティビティが完了すると、自動的にリリースへのマージが行われ、その時点でのスナップショットが取得されます。

複数の変更アクティビティが並行実行される場合、変更対象のルール競合を避けるためにそのルールに対してロックがかけられます。変更アクティビティが完了し、マージされるまでロックは解除されません。

3.5.5. 変更アクティビティのまとめ

以下の図で変更アクティビティのライフサイクルを示しています。変更アクティビティは各ユーザーの操作によってその状況を遷移します。

変更アクティビティのライフサイクル



以下の表では、変更アクティビティで最も頻度の高いユーザー操作、その操作を行うために必要なロール、この操作に対する前提条件、および操作後の変更アクティビティの状態を示します。

ユーザー操作	ロール	操作に対する前提条件	操作後の状態
アクティビティの作成	-	-	進行中
アクティビティの取り消し	所有者	-	取り消し済み
アクティビティの再オープン	所有者	アクティビティが「取り消し済み」状態にある	進行中
承認に進む	所有者	作成者が作業を終了済である	承認準備完了
作業の終了	作成者	作成者が作業中である	進行中
作業の再開	作成者	作成者が作業を終了済である	進行中
変更の承認	承認者	アクティビティが「承認準備完了」状態にある	完了
変更の拒否	承認者	アクティビティが「承認準備完了」状態にある	進行中

3.6. 検証アクティビティ

検証アクティビティはリリースのテスト計画やテスト結果を管理します。

どのようなテストが正しい検証を保証するかを定義します。Enterprise Console を使用して、リリースに対してテスト・スイートを実行し、レポートのリンクを検証アクティビティの結果に取り込むことが可能です。

検証アクティビティの前提



検証アクティビティはリリースに含まれる変更アクティビティが全て完了してから実行する必要があります。よって、検証アクティビティの各状況の変更は全ての変更アクティビティの完了を待つ必要があります（検証アクティビティの作成は可能です）

3.6.1. 検証アクティビティの作成

検証アクティビティの作成手順を記述します。

1. 対象リリースの画面右上より、[新規作成]>[検証アクティビティ]を選択します。



アクティビティがありません。
アクティビティを作成するには、「新規作成」ボタンをクリックしてください。

2. 「検証アクティビティの作成」画面が表示されるので、以下の値を入力します。
 - ・ アクティビティ名：新規に作成するアクティビティの名称を指定します。既存のアクティビティ名は使用できません。
 - ・ 期限の指定：アクティビティを完了させるまでの期限を指定します。
 - ・ 所有者
 - ・ 承認者
 - ・ テスター：テストを実行するユーザーを指定します。指定されたユーザー以外はテスターの状況を変更できません。（管理権限を持つユーザーは変更可能です）

作成直後は以下の状況です。

検証アクティビティ ストリーム

Ensure that the change to the minimum age of the borrower works

リリース	Spring
デザイン・サービス	loanvalidation-service
期限	2013/07/12
状況	進行中
所有者	Paul

▼承認者

Paul	未レビュー
------	-------

▼テスター

Abu	作業中
-----	-----

当シナリオでは、「My Validation Activity」におけるテスターに”Abu”を指定しているため、テスターの状況変更は”Abu”が実施します。

3.6.2. 検証アクティビティにおける作業（テスト計画作成）

検証アクティビティの「テスター」として指定されたユーザーは、テスト計画を作成・実行し検証アクティビティを期限内に完了させる必要があります。

※当シナリオでは検証アクティビティ「My Validation Activity」のテスターに”Abu”が指定されています。

1. ユーザーは、「作業」タブにて検証アクティビティの「テスター」として自身が指定されているアクティビティを確認します。

Decision Center ホーム ライブラリー **作業** Abu

マイ・アクティビティ

すべて 期限 リリース タイプ フィルター

✓ My Validation Activity
loanvalidation-service内・Spring 期限: 2013/07/12
所有者: Paul
Ensure that the change to the minimum age of the borrower works

2. アクティビティの「検証アクティビティ」タブから、指定されている「目標」や「期限」を確認することができます。

3. 「テスト計画」タブで「+ (テスト計画の追加)」アイコンを選択し、検証アクティビティにテスト計画を追加します。テスト計画は複数作成することができます。

3.6.3. 検証アクティビティにおける作業（テストの実施）

検証アクティビティにテスト・スイートを追加し、実行します。

テスト実施後に、テスト計画に結果を記入します。

1. 「テスト・スイート」タブを開き、「新規テスト・スイート」（「+」のアイコン）を選択します。



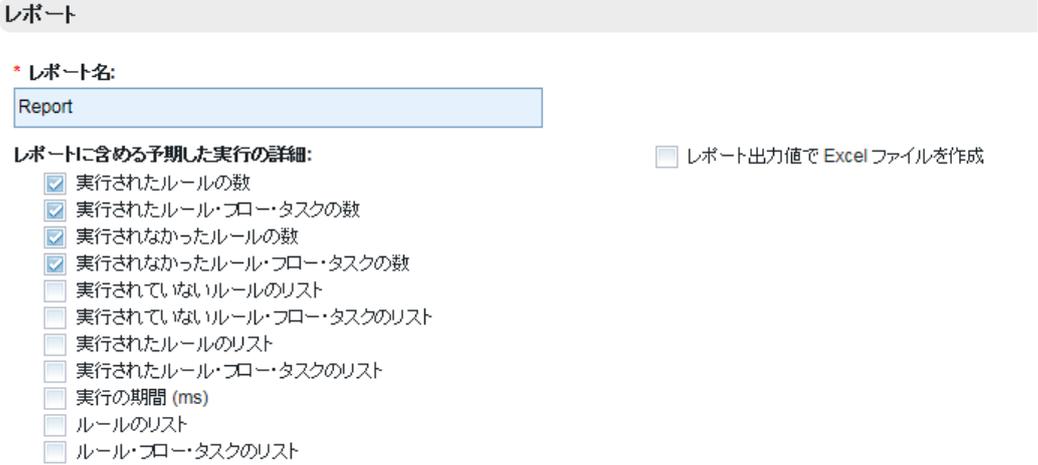
2. 作成する新規テスト・スイートの内容（名前、エクセルのシナリオ・ファイル、レポート名、レポート内容）を入力します。

※シナリオ・ファイルは事前に準備しておく必要があります（6.1 [Business Console でのシナリオ・ファイルの準備](#) 参照）

※サーバー定義は事前に Enterprise Console 等にて作成しておく必要があります。



レポートの名称とレポートに含める内容を選択します。



3. 入力後、画面右上の「保存して実行」を選択します。



4. テスト完了後、テスト・スイートの一覧の「最近のレポート」からレポートへのリンクを選択し、結果を確認します。

シナリオ成功率が 100%となっていることや、「実行の詳細」欄で実行内容の詳細を確認します。

Report - 2014-11-07_09-04-00

要約

テスト・スイート:
Spring release test suite (最新) ▶

シナリオ成功率:
✔ 100%

10 進数精度:
すべて 10 進数

操作:
all rules operation

シナリオ:
4 シナリオ ([spring.xlsx](#))

出力値:
[Report - 2014-11-07_09-04-00 - data.xlsx](#)

実行

▼ Very low risk
Very low risk loan accepted
✔
0

状況	テスト	結果
✔	the loan report is approved expect	the loan report is approved expect
✔	the messages of the loan report contains	値のセット <ul style="list-style-type: none"> • "Very low risk loan" • "Congratulations! Your loan has been approved" は正しい値 <ul style="list-style-type: none"> • "Very low risk loan" を含みます。

実行の詳細

実行されたルールの数: 12

実行されたタスクの数: 6

+ 実行されていないルール (61)

+ 実行されていないルール・タスク (3)

5. 「テスト計画」タブに戻り、テスト結果を入力します。

テスト・スイート テスト計画		loanvalidation-rules操作 ▾	
リリースの検証に必要な数だけテスト計画を作成および記述してください。			
+ <input type="text" value="フィルター"/>			
詳細	結果	最終変更者	最終変更日
create two tests: one to approve a loa...	spring release testsuite: ok.	Abu	2014/12/15 5:38

6. 全てのテスト計画が完了した上で、テストターの状況を「作業中」から「作業の終了」に変更します。

The image shows two side-by-side screenshots of a validation activity interface. The left screenshot shows the 'Tester' (テストター) section with a dropdown menu open, highlighting '作業中' (In Progress). A red arrow points to the right screenshot, where the status has changed to '完了' (Completed) with a green checkmark icon.

項目	値
リリース	Spring
デシジョン・サービス	loanvalidation-service
期限	2013/07/12
状況	進行中
所有者	Paul
承認者	Paul
承認者	未レビュー
テストター	Abu
テストター	完了 ✓

3.6.4. 検証アクティビティの完了

検証アクティビティの「所有者」として指定されたユーザーは、全てのテスト結果を確認し、検証アクティビティの状況を承認へ進めます。

※当シナリオでは検証アクティビティ「My Validation Activity」の所有者に”Paul”が指定されています。

「検証アクティビティ」の状況を「進行中」から「承認に進む」へ変更します。状況は自動的に「承認準備完了」に推移します。

デシジョン・サービス	loanvalidation-service	デシジョン・サービス	loanvalidation-service
期限	2013/08/14	期限	2013/08/14
状況	進行中	状況	承認準備完了
所有者		所有者	Paul
承認者	Paul	承認者	Paul
	未レビュー		未レビュー

3.6.5. 検証アクティビティの承認

検証アクティビティの「承認者」として指定されたユーザーは検証結果を確認し、検証アクティビティを承認します。

※当シナリオでは検証アクティビティ「My Validation Activity」の承認者に”Paul”が指定されています。

承認者の状況を「未レビュー」から「変更の承認」へ変更します。承認者の状況は自動的に「変更承認済み」に推移します。変更アクティビティの状況は自動的に「完了」に推移します。

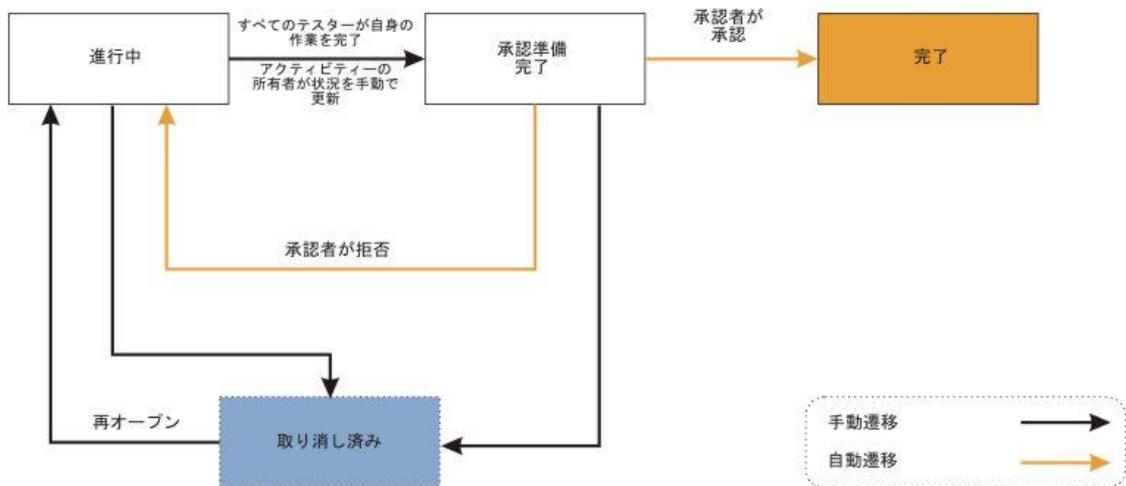
デシジョン・サービス	loanvalidation-service	デシジョン・サービス	loanvalidation-service
期限	2013/08/14	期限	2013/08/14
状況	承認準備完了	状況	完了
所有者	Paul	所有者	Paul
承認者	Paul	承認者	Paul
	未レビュー		変更承認済み
テスター			

検証アクティビティが完了すると、自動的にリリースへのマージが行われ、その時点でのスナップショットが取得されます。

3.6.6. 検証アクティビティのまとめ

以下の図で検証アクティビティのライフサイクルを示しています。検証アクティビティは各ユーザーの操作によってその状況を遷移します。

✓ 検証アクティビティのライフサイクル



以下の表では、検証アクティビティで最も頻度の高いユーザー操作、その操作を行うために必要なロール、この操作に対する前提条件、および操作後の検証アクティビティの状態を示します。

ユーザー操作	ロール	操作に対する前提条件	操作後の状態
アクティビティの作成	-	-	進行中
アクティビティの取消	所有者	-	取消済み
アクティビティの再オープン	所有者	アクティビティが「取消済み」状態にある	進行中
承認に進む	所有者	テスターが作業を終了済である	承認準備完了
作業の終了	テスター	テスターが作業中である	進行中
作業の再開	テスター	テスターが作業を終了済である	進行中
変更の承認	承認者	アクティビティが「承認準備完了」状態にある	完了
変更の拒否	承認者	アクティビティが「承認準備完了」状態にある	進行中

3.7. リリースの完了

予定された全アクティビティの完了後、承認者はリリースを承認し、完了します。リリースの完了後、本番用の実行環境にリリースの配布を行います（※事前に配布構成が構成済みである必要があります）。

3.7.1. リリースの承認と完了

リリースの「所有者」として指定されたユーザーは、全アクティビティの完了が確認できたらリリースを承認へと進めます。

※当シナリオではリリース「Spring」の承認者に”Paul”が指定されています。

The screenshot shows the 'Decision Center' interface for the 'Spring Release' project. The top navigation bar includes 'ホーム', 'ライブラリー', and '作業'. The main content area is divided into tabs: 'アクティビティ', 'ルール', 'テスト', '配布', and 'スナップショット'. The 'アクティビティ' tab is selected, showing a list of activities. The activities are:

- my change activity** (starred): change the minimum age of the borrower. 期限: 2015/01/20, 所有者: Paul
- my validation activity** (checked): Ensure the change of the minimum age of the borrower works. 期限: 2015/01/25, 所有者: Paul

A red dashed circle highlights the release date and owner information for both activities.

リリースの状況を「進行中」から「承認に進む」へ変更します。

リリース ストリーム

作成者: Paul
2013/07/10

▼目標

Update the minimum age of the borrower

デシジョン・サービス ... loanvalidation-service

期限 2013/07/17

状況 **進行中**

所有者

▼承認者

Paul 未レビュー

リリースの「承認者」として指定されたユーザーは、リリースの変更内容や検証結果を確認し、リリースを承認します。

承認者の状況を「未レビュー」から「変更の承認」へ変更します。承認者の状況は自動的に「変更承認済み」に推移します。リリースの状況は自動的に「完了」に推移します。これ以降はリリースに対する変更は実施できません。

リリース ストリーム リリース ストリーム

作成者: Paul
2013/07/10

▼目標

Update the minimum age of the borrower

デシジョン・サービス ... loanvalidation-service

期限 2013/07/17

状況 **承認準備完了**

所有者 Paul

▼承認者

Paul

作成者: Paul
2013/07/10

▼目標

Update the minimum age of the borrower

デシジョン・サービス ... loanvalidation-service

期限 2013/07/17

状況 **完了**

所有者 Paul

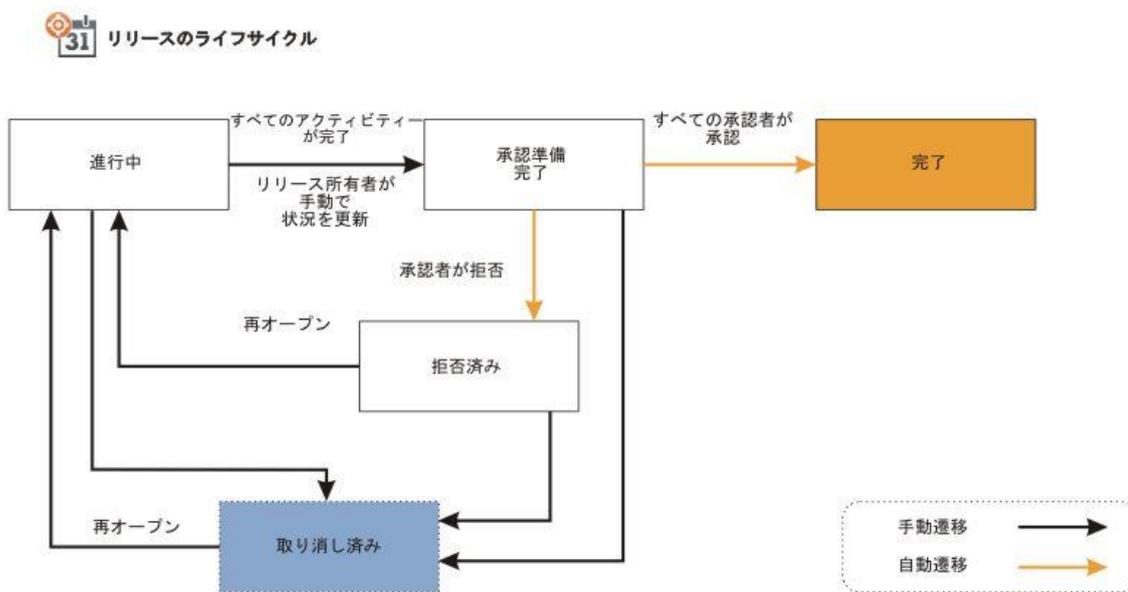
▼承認者

Paul **変更承認済み**

完了後、リリースを実行環境へ配布する方法については、「7. サーバーへの配布」で解説します。

3.7.2. リリースのまとめ

以下の図でリリースのライフサイクルを示しています。リリースは各ユーザーの操作によってその状態を遷移します。



以下の表では、リリースで最も頻度の高いユーザー操作、その操作を行うために必要なロール、この操作に対する前提条件、および操作後のリリースの状態を示します。

ユーザー操作	ロール	操作後の状態
リリースの作成	-	進行中
リリースの取り消し	所有者	取り消し済み
リリースの再オープン	所有者	進行中
承認に進む	所有者	承認準備完了
変更の拒否	承認者	拒否済み
変更の承認	承認者	完了

3.8. タイムライン

タイムラインでは、リリース/アクティビティの履歴を表示して、そのリリース/アクティビティが作成された時点から発生していたイベントを確認することができます。リリースや変更アクティビティの存続期間中に発生する以下のようなイベントが含まれます。

- ・ リリースの作成、アクティビティの作成/削除、アクティビティの名前や説明の変更
- ・ ルールの作成/変更/削除、ルールバージョンの復元
- ・ スナップショットの取得/復元/削除、スナップショットの名前や説明の変更
- ・ リリースまたはアクティビティの状況または承認状況の変更

想定シナリオで実施した作業のタイムラインは以下のようになります。

■ リリース

The screenshot displays a timeline for the release 'loanvalidation-service > Spring'. The interface includes a search bar, navigation icons for snapshots, new releases, and ending the timeline, and a search filter for the current release. The timeline is set to July 2013 and shows the following events:

- 2013/07/10 16:07:33: リリースの状況が 完了 に変更されました
- 2013/07/10 16:07:33: あなた が リリースを承認しました
- 2013/07/10 16:07:04: あなた が、リリースの状況を 進行中 から 承認準備完了 に変更しました
- 2013/07/10 16:04:42: My Validation Activity 検証アクティビティの状況が 完了 に変更されました
- 2013/07/10 16:04:32: あなた が、My Validation Activity 検証アクティビティの状況を 進行中 から 承認準備完了 に変更しました
- 2013/07/10 15:41:25: あなた が、My Validation Activity 検証アクティビティを作成しました
- 2013/07/10 15:31:05: My Change Activity 変更アクティビティの状況が 完了 に変更されました
- 2013/07/10 15:31:04: あなた が checkAge ルールのバージョンを作成しました
変更アクティビティ: My Change Activity の結果。 [v3.0]
- 2013/07/10 15:31:03: あなた が My Change Activity からマージスナップショットを作成しました
変更アクティビティ: My Change Activity の結果。
- 2013/07/10 15:28:50: あなた が、My Change Activity 変更アクティビティの状況を 進行中 から 承認準備完了 に変更しました
- 2013/07/10 15:00:54: あなた が、My Change Activity 変更アクティビティを作成しました
- 2013/07/10 14:55:06: あなた が 初期スナップショット スナップショットを作成しました
- 2013/07/10 14:55:06: あなた が loanvalidation-service > 初期リリースリリースに基づいてリリースを作成しました

■ 変更アクティビティー

loanvalidation-service > Spring > **My Change Activity** ★

表示: **すべて**

2013 7月

2013

- アクティビティーの状況が **完了** に変更されました
2013/07/10 15:31:05
コメント
- あなたが、アクティビティーの状況を **進行中** から **承認準備完了** に変更しました
2013/07/10 15:28:50
コメント
- Bea が **checkAge** ルールのバージョンを作成しました
2013/07/10 15:21:55
最低年齢を18から21に変更 [v4.0]
コメント
- あなたが、アクティビティーを作成しました
2013/07/10 15:00:54
コメント
- あなたが、アクティビティーを承認しました
2013/07/10 15:31:02
コメント
- Bea が、アクティビティーでの作業を終了しました
2013/07/10 15:23:51
コメント
- あなたが **1回** スナップショットを作成しました
2013/07/10 15:00:54
コメント

■ 検証アクティビティー

loanvalidation-service > Spring > **My Validation Activity** ★

2013 7月

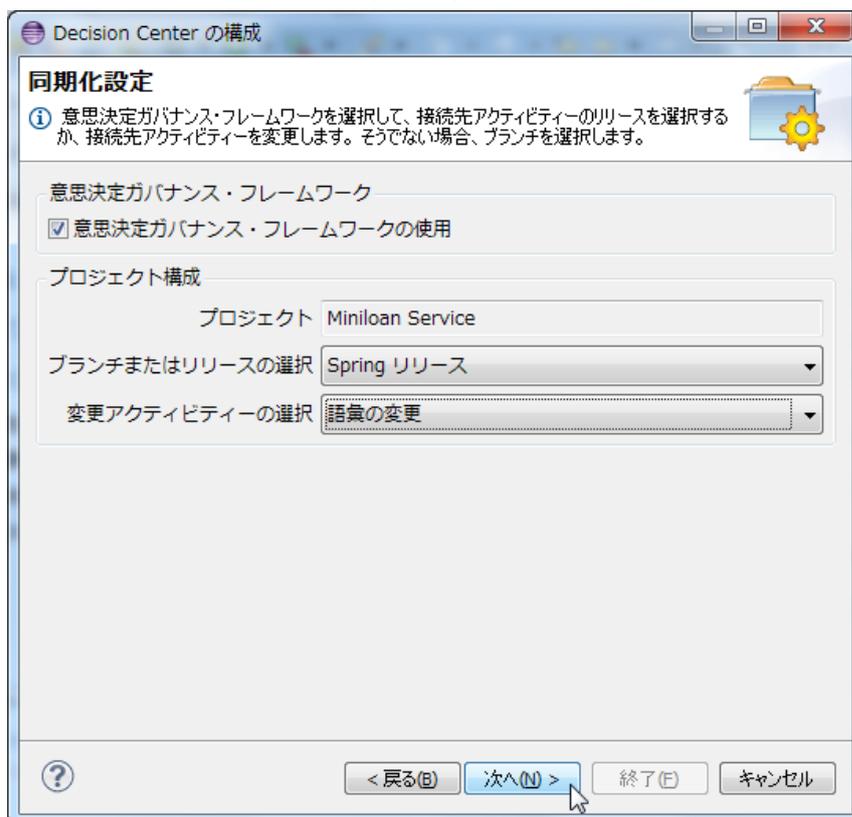
2013

- アクティビティーの状況が **完了** に変更されました
2013/07/10 16:04:42
コメント
- あなたが、アクティビティーの状況を **進行中** から **承認準備完了** に変更しました
2013/07/10 16:04:32
コメント
- Abu がテスト計画を更新しました
2013/07/10 15:58:38
コメント
- あなたが、アクティビティーを作成しました
2013/07/10 15:41:25
コメント
- あなたが、アクティビティーを承認しました
2013/07/10 16:04:42
コメント
- Abu が、アクティビティーでの作業を終了しました
2013/07/10 15:59:18
コメント
- Abu がテスト計画を更新しました
2013/07/10 15:49:07
コメント

3.9. Rule Designer での同期と変更

語彙 (BOM、XOM) やルール・フローの変更はブラウザのコンソールからは実施できません。これらについての変更はアクティビティーとしては作成するものの、実際の変更は IT ユーザーが Rule Designer を使って実施し、その内容を Decision Center へ同期させることになります。ここでは、Rule Designer 上で変更を行った後に、該当の変更アクティビティーを指定して同期する方法を解説します。

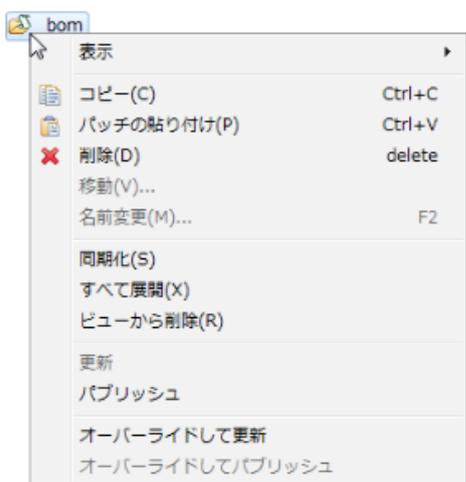
1. 意思決定サービスのコンテキスト・メニューから「Decision Center」>「接続」を選択します (Rule Designer の意思決定サービスが、Decision Center 上の初期リリースや以前のリリースと紐づいてしまっている場合、「接続」が表示されません。先に「切断」を実施してから、「接続」を選択します)。
2. Decision Center の接続情報を入力し、「接続」をクリックして確認してから、「次へ」を選択します。
3. チェックボックス「意思決定ガバナンス・フレームワークの使用」を入力状態にし、対象のリリースと変更アクティビティーの名前をドロップダウンから指定します。



4. 同時に同期化される依存プロジェクトのリストを確認して「終了」を選択します。
5. 「同期化」ビューに、Decision Center と相違のある作成物のリストが表示されます。初期リリース後に Business Console 上で変更されたルールや意思決定表が一覧にある場合は、

それぞれのコンテキスト・メニューから「更新」を選択します。

6. Business Console 上で変更済みの内容が Rule Designer へ同期されます。
7. Rule Designer で、必要な変更を実施します。
8. 意思決定サービスのコンテキスト・メニューから「Decision Center」>「Decision Center との同期化」を選択します。
9. ウィンドウ「同期化設定」で先ほどと同じアクティビティーが指定されていることを確認し、「終了」を選択します。「同期化」ビューに、Decision Center と相違のある作成物のリストが表示されます。
10. 変更対象の作成物またはフォルダーのコンテキスト・メニューから「パブリッシュ」を選択します。



11. Rule Designer での変更が変更アクティビティーへ同期されます。

4. ガバナンス・フレームワークにおけるユーザー登録とアクセス制御

ガバナンス・フレームワークを使用する上で必要となるユーザー登録とアクセス制御の設定について記述します。ユーザーやグループの設定をしていない環境を使用する上では、3章の想定シナリオを実施する前に必要な作業です。

4.1. アクセス権の設定概要

Decision Center Business Console および Enterprise Console を使用する上で、コンソールへのログイン認証、デシジョン・サービスやルール・プロジェクトへの認可の設定が可能です。コンソールへのログイン認証については、WAS 管理コンソールを使用してユーザーとグループの設定を行い、ロールを付与します。また、ガバナンス・フレームワークへのユーザー登録を別途行います。

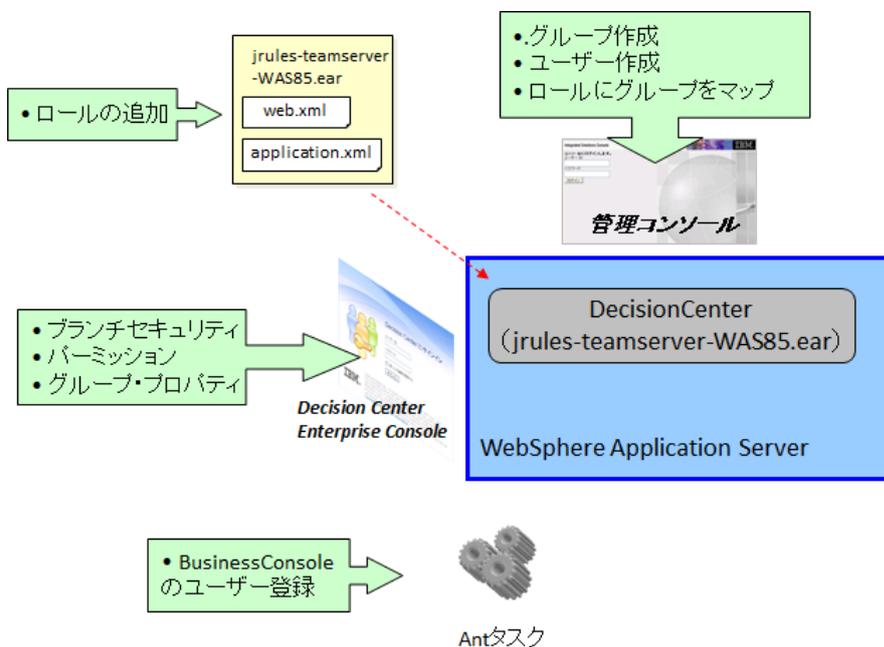
4.1.1. アクセス権の設定概要

アクセス権の設定内容に対する設定箇所と対応トピックを以下に示します。

「新規ロールの追加」と「アクティビティやルール・プロジェクトへの認可」については、デフォルトのアクセス権では要件を満たさずアクセス制御が必要な場合のみに行うオプション作業です。

アクセス制御内容	設定方法	対応トピック	必須
コンソールへのログイン認証	WAS 管理コンソール	4.2 ユーザーとグループ 4.3 ロール	○
ガバナンス・フレームワークへのユーザーの登録	Ant タスクの実行	4.4 Business Console のユーザー登録	○
変更アクティビティにおける関与者の指定	Business Console(ガバナンス・フレームワーク)	3.4 変更アクティビティ	○
新規ロールの追加	Decision Center アプリケーション Enterprise Console	5.1 ロール 5.2 Enterprise Console へのグループ (ロール) 設定	
アクティビティやルール・プロジェクトへの認可	Enterprise Console	5.3 ブランチ・セキュリティ 5.4 パーミッション	

下図に示すように、各設定は Enterprise Console、WAS 管理コンソール、Ant タスク、Decision Center の本体となる EAR に対して行います。



4.1.2. Business Console のデフォルトのアクセス権

デフォルトでは、全てのログイン・ユーザーがデシジョン・サービスにおけるリリースやアクティビティーの表示・作成が可能な状態です。

更新についてはガバナンス・フレームワークの制御に則り、リリースやアクティビティーで各関係者として指定されたユーザーが権限を持ちます。例えば、変更アクティビティーについては、「作成者」として指定されたユーザーが、ルール・アーティファクトの作成・変更・削除が可能です。

リリースおよびアクティビティーへアクセス制御を行いたい場合、新規ロールを作成し、Enterprise Console を使用してブランチ・セキュリティとパーミッションの設定を行います。例えば、特定のグループに対してのみだけ、デシジョン・サービスを参照させたい場合などです。

4.1.3. Enterprise Console のデフォルトのアクセス権

デフォルトでは、全てのログイン・ユーザーがルール・プロジェクトの表示・作成・編集・削除が可能です。

ルール・プロジェクトへ追加でアクセス権の設定を行いたい場合、新規ロールを作成し、Enterprise Console を使用してブランチ・セキュリティとパーミッションの設定を行います。例えば、特定のグループに対してのみ、ルール・プロジェクトを参照させたい場合などです。

4.2. ユーザーとグループ

Decision Center Business Console / Enterprise Console へのログイン認証で使用されるユーザーとグループについて説明します。

新規グループ/新規ユーザーの作成

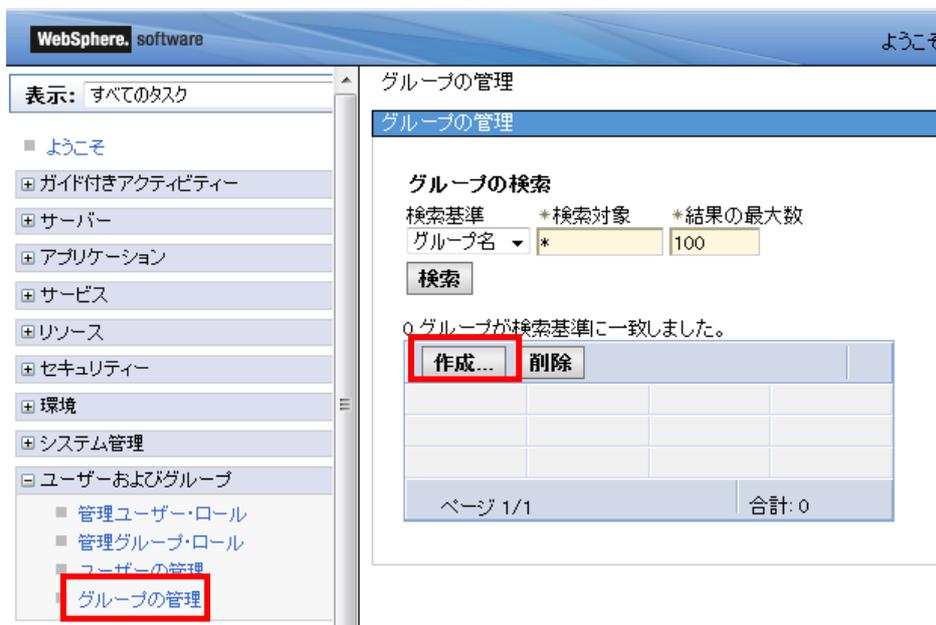
ユーザー/グループが定義されていない環境では、WAS の管理コンソールから新規にユーザー/グループを作成します。

当資料では WAS の統合リポジトリのデフォルトであるファイル・ベースでユーザー/グループ情報が登録される方法を説明します。LDAP と連携してユーザーおよびグループを定義することも可能です。

以下の担当者について、ユーザーとグループを作成する手順を記述します。

- ユーザー：Bea
- グループ：rtsUserGrp

1. 管理コンソールのナビゲーション・ツリーより [ユーザーおよびグループ] > [グループの管理] をクリックして [グループの管理] 画面を表示します。 [作成] ボタンを押下し、グループを作成していきます。



2. [グループの作成] 画面において、[グループ名] を入力し [作成] ボタンを押下すると、新規グループが作成されます。

グループの管理

グループの作成

*グループ名

説明

作成 キャンセル

グループの管理

i グループが正常に作成されました。
[rtsUserGrp](#)

類似の作成 閉じる

続いて、各グループに属するユーザーを作成します。

3. WAS 管理コンソールのナビゲーション・ツリーより[ユーザーおよびグループ] > [ユーザーの管理]をクリックし、[ユーザーの管理]画面を表示します。[作成]ボタンを押下します。
4. [ユーザーの作成]画面では、Decision Center へのログインで必要となる[ユーザーID]と[パスワード]および、[ラストネーム]、[ファーストネーム]を入力します。[作成]ボタンを押下すると新規ユーザーが生成されます。

ユーザーの管理

ユーザーの作成

*ユーザー ID

*姓 *名

Eメール

*パスワード *パスワードの確認

作成 キャンセル

同様にしてユーザー「Paul」と「Abu」を作成します。

5. 作成したユーザーをグループにマッピングします。[ユーザーID]のリンクをクリックします。

ユーザーの管理

ユーザーの管理

ユーザーの検索

検索基準 *検索対象 *結果の最大数

ユーザーID * 100

検索

5ユーザーが検索基準に一致しました。

作成... 削除 選択 アクションの選択...

選択	ユーザーID	姓	名	Eメール	固有名
<input type="checkbox"/>	Abu	Abu	Abu		uid=Abu,o=defaultWIMFileBasedRealm
<input checked="" type="checkbox"/>	Bea	Bea	Bea		uid=Bea,o=defaultWIMFileBasedRealm
<input type="checkbox"/>	Paul	Paul	Paul		uid=Paul,o=defaultWIMFileBasedRealm

6. [ユーザー・プロパティ]画面の[グループ]タブにて[追加]ボタンを押下し、グループを追加します。

ユーザーの管理

ユーザー・プロパティ

一般 **グループ**

ユーザーID

Bea

このユーザーは 0 グループのメンバーです。

追加... 除去

ページ 1/1 合計: 0

7. [検索]を押して定義済みのグループをリストし、メンバーの属するグループとして「rtsUserGroup」を選択し、追加します。

ユーザーの管理

ユーザーをグループに追加

ユーザーID

Bea

このユーザーをメンバーにするグループを見つけるための検索基準を入力してください。

検索基準 *検索対象 *結果の最大数

グループ名 * 100

検索

閉じる

ユーザーの管理

ユーザーをグループに追加

ユーザーID
Bea

このユーザーをメンバーにするグループを見つけるため

検索基準 * 検索対象 * 結果の最大数
グループ名 * 100

検索

2 グループが検索基準に一致しました。

CompA
rtsUserGrp

追加 閉じる

同様に「Abu」も rtsUserGroup に追加します。

新規グループ/新規ユーザーの作成手順は以上です。

4.3. ロール

Decision Center ではデフォルトでは `rtsUser/rtsConfigManager/rtsAdministrator` の3つのロールが定義されています。

4.3.1. 定義済みグループ（ロール）

Decision Center Business Console / Enterprise Console にログインするユーザーはすべて、以下のいずれかのグループ（ロール）にマップされるグループ/ユーザーである必要があります。いずれかのロールにマッピングされないユーザーはコンソールにログインできません。

グループ(ロール)名	ロール	アクセス権
<code>rtsUser</code>	標準ユーザー	ユーザーは、Decision Center にサインインすると、「探索」、「クエリー」、「作成」、「分析」、および「プロジェクト」の各タブにアクセスできます。
<code>rtsConfigManager</code>	構成マネージャー	ユーザーは <code>rtsUser</code> と同じアクセス権を有しており、さらにプロジェクトのセットアップに関する機能を「プロジェクト」タブで使用することができます。
<code>rtsAdministrator</code>	Decision Center 管理者	ユーザーは、 <code>rtsConfigManager</code> のすべての機能、さらに「プロジェクト」タブおよび「構成」タブの追加機能や、一部のツールバーの追加ボタン（「ロック解除」など）を使用できます。 ガバナンス・フレームワークにおいては各関係者のステータスを変更することができます。

デシジョン・サービスやルール・プロジェクトに対するアクセス制御など、更に細やかに制御したい場合は、ブランチ・セキュリティーとパーミッションの設定を行います。ただし、定義済みロールに対し、パーミッションを設定してはいけません。

4.3.2. ロールとユーザーおよびグループのマッピング

WAS 管理コンソールからロールとユーザーおよびグループをマッピングします。ユーザーは Decision Center Business Console / Enterprise Console にログインするためには定義済みグループ（ロール）である「`rtsUser/rtsConfigManager/rtsAdministrator`」のいずれかにマッピングされる必要があります。

ここではロール「`rtsUser`」にグループ「`rtsUserGrp`」をマッピングする手順を記述します。

1. 管理コンソールのナビゲーション・ツリーより[アプリケーション]>[アプリケーション・タイプ]>[WebSphere エンタープライズ・アプリケーション]を選択します。Decision Center のアプリケーションである「ILOG Rule Team Server」のリンクを選択します。

The screenshot shows the WebSphere management console interface. On the left is a navigation tree with categories like 'ようこそ', 'ガイド付きアクティビティ', 'サーバー', 'アプリケーション', 'サービス', 'リソース', 'セキュリティ', '環境', and 'システム管理'. Under 'アプリケーション', the path 'WebSphere エンタープライズ・アプリケーション' is highlighted with a red box. On the right, the 'エンタープライズ・アプリケーション' page is displayed, showing a list of applications under the heading '管理できるリソース:'. The application 'ILOG Rule Team Server' is highlighted with a red box in this list.

2. [詳細プロパティ]の[ユーザー/グループへのセキュリティ・ロールのマッピング]を選択します。

The screenshot shows the configuration page for 'ILOG Rule Team Server'. The page title is 'エンタープライズ・アプリケーション > ILOG Rule Team Server'. Below the title, there is a '構成' (Configuration) section with several sub-sections: '一般プロパティ' (General Properties), 'モジュール' (Modules), 'Web モジュール・プロパティ' (Web Module Properties), 'Enterprise Java Bean プロパティ' (Enterprise Java Bean Properties), and 'クライアント・モジュール・プロパティ' (Client Module Properties). Under the '一般プロパティ' section, the '名前' (Name) is 'ILOG Rule Team Server'. Under the '詳細プロパティ' (Detailed Properties) section, the link 'ユーザー/グループへのセキュリティ・ロールのマッピング' (Mapping of security roles to users/groups) is highlighted with a red box.

3. ロール[rtsUser]のチェック・ボックスにチェックを付け、[グループのマップ]ボタンを押下します。

エンタープライズ・アプリケーション

[エンタープライズ・アプリケーション](#) > [ILOG Rule Team Server](#) > [ユーザー/グループへのセキュリティ・ロールのマッピング](#)

ユーザー/グループへのセキュリティ・ロールのマッピング

アプリケーションまたはモジュールで定義された各ロールは、ドメイン・ユーザー・レジストリーのユーザーまたはグループにマップする必要があります。accessIds: accessIds は、複数ドメインのシナリオでレルム間通信を使用する場合にのみ必要です。その他のシナリオの場合ですべて、accessId は、アプリケーション開始中にユーザーまたはグループ名を基に判別されます。accessIds は、WebSphere デフォルト許可エンジンの使用時に Java Platform, Enterprise Edition 許可に使用されるユーザーおよびグループ情報を表します。accessIds の形式は、user:realm/uniqueUserID、group:realm/uniqueGroupID です。このフィールドに誤った情報を入力すると、許可が失敗します。AllAuthenticatedInTrustedRealms: これは、トラステッド・レルムの有効なユーザーにアクセス権限が付与されることを示します。AllAuthenticated: これは、現行レルムの有効なユーザーにアクセス権限が付与されることを示します。

ユーザーのマップ... **グループのマップ...** 特別な対象のマップ ▾

選択	ロール	特別な対象	マップされたユーザー	マップされたグループ
<input checked="" type="checkbox"/>	rtsUser	なし。		
<input type="checkbox"/>	rtsAdministrator	なし。		
<input type="checkbox"/>	rtsConfigManager	なし。		
<input type="checkbox"/>	rtsInstaller	なし。		

4. 検索ボタンから定義済みのグループをリストし、「rtsUserGrp」を選択します。

[エンタープライズ・アプリケーション](#) > [ILOG Rule Team Server](#) > [ユーザー/グループへのセキュリティ・ロールのマッピング](#)

ユーザー/グループへのマップ

このページを使用して、ユーザーまたはグループを検索し、それらを選択したロールに追加します。

■ rtsUser

グループの検索および選択

表示する結果の数を決定し、検索ストリングを入力 (ワイルドカードは * を使用) して、「検索」をクリックします。「使用可能」リストでグループを、それらのグループを「ロールにマップ済み」リストに追加します。

最大数を表示 (検索結果)

20 件

検索ストリング

*

検索

现阶段では、選択したレルムにアクセスできません。サーバーの始動が必要な場合があります。そうでない場合は、以下のフィールドを使用し固有のユーザー ID によってユーザーを追加できます。

ユーザー・ショート・ネーム

固有のユーザー ID



選択済み:



5. [OK]ボタンを押し、構成を保管します。

グループの検索および選択

表示する結果の数を決定し、検索ストリングを入力（ワイルドカードには * を使用）して、「検索」をクリックします。「使用可能」リストでグループを選択し、それらのグループを「ロールにマップ済み」リストに追加します。

最大数を表示（検索結果）
20 件

検索ストリング
*

検索

使用可能:
CompA

選択済み:
rtsUserGrp

ロールのマッピングの設定は以上です。同様にして「Paul」を「rtsAdministrator」にマッピングします。

詳細手順については下記リンクの **Information Center** の解説を参照してください。

- ロールへのユーザーおよびグループの割り当て

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wasinfo/v8r5/topic/com.ibm.websphere.nd.multiplatform.doc/ae/tsec_tasroles.html

4.4. Business Console へのユーザー登録

4.2 と 4.3 の設定によって Business Console へのログインが可能になりますが、リリースやアクティビティーの関与者（所有者や承認者など）としての権限は保持していません。つまり、リリースやアクティビティー作成時に関与者として指定することができません。関与者として指定可能となるのは Business Console へのユーザー登録が必要です。

以降、ユーザー登録方法について記述します。

4.4.1. ユーザー・ファイルの作成

関与者の権限を与えるユーザーを以下の形式のユーザー・ファイルにリスト化します。

```
<Users>
  <User><LoginId>Paul</LoginId></User>
  <User><LoginId>Bea</LoginId></User>
  <User><LoginId>Abu</LoginId></User>
</Users>
```

ユーザー・ファイルのサンプルについては<Install_root>/teamserver/tutorials/fileusers.xmlを参照してください。

4.4.2. Ant タスクによるユーザー登録

Ant タスクの「upload-users」コマンドを実行してユーザー・ファイルにリストしたユーザーを Business Console に登録します。

コマンド実行時には以下の引数を指定します。指定しない場合はデフォルト値が使用されます。

```
-DuserFilePath=UserFile_path  
-Dserver.url=server_url  
-Dusername=username  
-Dpassword=password  
-DdatasourceName=datasource
```

実行例：

```
<Install_root>/ODM/shared/tools/ant/bin>ant      upload-users      -DuserFilePath=<my_path>/fileusers.xml  
-Dserver.url=http://localhost:9080/teamserver -buildfile <Install_root>/ODM/teamserver/bin/build.xml  
Buildfile: <Install_root>/ODM/teamserver/bin/build.xml
```

upload-users:

```
[upload-users] [serverURL] 'http://localhost:9080/teamserver'  
[upload-users] [datasourceName] 'jdbc/ilogDataSource'  
[upload-users] [username] 'rtsAdmin'  
[upload-users] [password] '*****'  
[upload-users] [userFilePath] '<my_path>/fileusers.xml'  
[upload-users] [INFO] org.springframework.context.support.ClassPathXmlApplicationContext - Refreshing  
org.springframework.context.support.ClassPathXmlAppli  
cationContext@68b53f10: startup date [Wed Jul 31 10:41:57 JST 2013]; root of context hierarchy  
[upload-users] [INFO] org.springframework.beans.factory.xml.XmlBeanDefinitionReader - Loading XML bean  
definitions from class path resource [ilog/rules/teamserver/client/client-applicationContext.xml]  
[upload-users] [INFO] org.springframework.beans.factory.support.DefaultListableBeanFactory - Pre-instantiating  
singletons in org.springframework.beans.factory.support.DefaultListableBeanFactory@1e9acd5d: defining beans  
[httpInvokerProxy]; root of factory hierarchy  
[upload-users] File '<my_path>fileusers.xml' uploaded.
```

BUILD SUCCESSFUL

Total time: 2 seconds

3 章の想定シナリオを実施する上で必要なユーザー定義およびロールの設定は以上です。

5. 新規ロールによるアクセス制御（オプション設定）

4章ではガバナンス・フレームワークを使用する上で最低限必要なユーザー登録設定について解説しました。当章では、オプション作業としてリリースやアクティビティの単位でアクセス制御を行う方法について説明します。

特定のユーザー/グループにのみリリースやアクティビティを参照させたい場合、ユーザーに削除権限を持たせたくない場合など、新規ロールを作成してブランチ・セキュリティーやパーミッションの設定を行います。

5.1. 新規ロールの作成

新規にロールを作成するには、Decision Center の本体であるエンタープライズ・アプリケーション「jrules-teamserver-WAS85.ear」の application.xml と web.xml を編集します。

ロール名「Developer」を新規に作成します。application.xml と web.xml ファイルに以下を追加します。

```
<security-role>
  <role-name>Developer</role-name>
</security-role>
```

5.2. Enterprise Console におけるグループ(ロール)の設定

ブランチ・セキュリティーを使用するには新規に作成したロールを Enterprise Console に定義する必要があります。これによって新規ロールがデータベースにアップロードされ、ブランチ・セキュリティーによるパーミッション・メカニズムを利用可能となります。

当シナリオでは「4.4.2 新規ロールの作成」で作成したロール「Developer」を定義します。

1. 管理者権限を有するユーザーで Enterprise Console にログインします。
2. [構成]タブから[インストール設定ウィザード]を選択します。



構成

配布

ルール・セット・エクストラクターの編集

ルール・セットの生成に使用するエクストラクターのリストを表示、編集します

RuleApp の管理

RuleApp を管理し、RuleApp アーカイブを生成し、RuleApp を Rule Execution Server に配布します。

サーバーの管理

プロジェクトを配布するサーバーの作成、削除、および編集を行います

セキュリティ

ブランチ・セキュリティの編集

現在のプロジェクト・ブランチのセキュリティ設定を編集します

パーミッションの編集

任意のグループのユーザーに付与するデータのアクセス権や変更権を変更します。

有効なパーミッションの表示

複数のグループに属するユーザーの有効なパーミッションを表示します。

管理

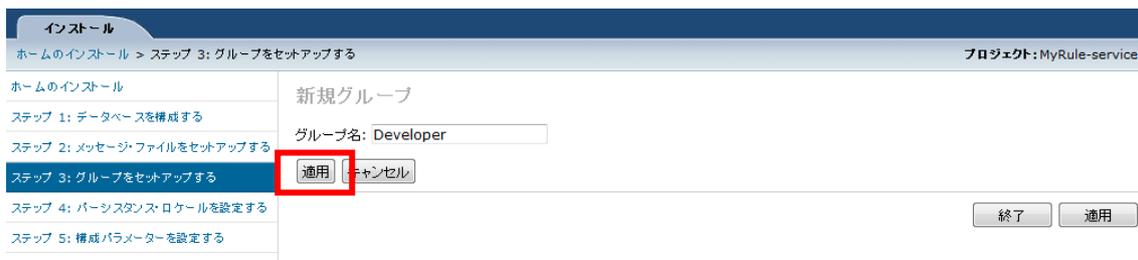
インストール設定ウィザード

Decision Center の既存のインストール済み環境を変更します

3. [ステップ 3: グループをセットアップする] を選択し、新規ロールを追加します。[新規] ボタンを押します。



4. [グループ名] に「4.4.1. 新規ロールの作成」で定義したロール名「Developer」を入力し、[適用] ボタンを押します。



5. 新規グループがロールとして定義されたことを確認し、[適用] ボタンを押します。

インストール

ホームのインストール > ステップ 3: グループをセットアップする プロジェクト: MyRule-service

ホームのインストール

- ステップ 1: データベースを構成する
- ステップ 2: メッセージ・ファイルをセットアップする
- ステップ 3: グループをセットアップする**
- ステップ 4: パーシスタンス・ロケールを設定する
- ステップ 5: 構成パラメーターを設定する

グループのセットアップ

Decision Center プロジェクト・セキュリティおよびそのパーミッション・メカニズムを使用するには、アプリケーション・サーバーとこの場所の両方ですべてのグループ (rtsAdministrator を除く) を宣言する必要があります。

グループ
<input type="checkbox"/> Developer 1 件

6. 実行した操作を確認し、[OK]ボタンを押します。

インストール

ホームのインストール

- ステップ 1: データベースを構成する
- ステップ 2: メッセージ・ファイルをセットアップする
- ステップ 3: グループをセットアップする**
- ステップ 4: パーシスタンス・ロケールを設定する
- ステップ 5: 構成パラメーターを設定する

インストール・ログ

次の操作を実行しました。

- 実行された操作
 - 1 - グループ定義

追加されたグループ: Developer

Decision Center のホーム・ページにジャンプします。

5.3. ブランチ・セキュリティ

デシジョン・サービスもしくはデシジョン・サービスの特定のリリースに対してアクセス制御を設けたい場合、ブランチ・セキュリティを設定します。ブランチ・セキュリティを実施する場合は、それらにアクセスできるロール（グループ）を指定します。そうすると、少なくとも指定したロールを持たないユーザーは、デシジョン・サービスのリリースやルール・プロジェクトを表示することができません。

当シナリオではデシジョン・サービス「loanvalidation-service」のリリース「Winter1」に対してブランチ・セキュリティを設定します。アクセス可能なグループ（ロール）として「Developer」を指定します。

1. ブランチ・セキュリティを設定するために、Enterprise Console に管理者権限を有するユーザーでログインします。
2. 設定対象のデシジョン・サービスとリリースを選択した状態で、[構成]タブを開きます。



Decision Center のホーム・ページによるこそ

● プロジェクトでの作業
使用中のプロジェクト: loanvalidation-service
使用中のブランチ: <なし>
現在のアクション: ブランチでの作業

● デシジョン・サービスでの作業
使用中のデシジョン・サービス: loanvalidation-service
使用中のリリース: Winter1
現行の変更アクティビティ: <なし>
現在のアクション: リリースでの作業

3. [ブランチ・セキュリティの編集]を選択します。

構成

配布

[ルール・セット・エクストラクターの編集](#)

ルール・セットの生成に使用するエクストラクターのリストを表示、編集します

[RuleApp の管理](#)

RuleApp を管理し、RuleApp アーカイブを生成し、RuleApp を Rule Execution Server に配布します。

[サーバーの管理](#)

プロジェクトを配布するサーバーの作成、削除、および編集を行います

セキュリティ

[ブランチ・セキュリティの編集](#)

現在のプロジェクト・ブランチのセキュリティ設定を編集します

[パーミッションの編集](#)

任意のグループのユーザーに付与するデータのアクセス権や変更権を変更します。

[有効なパーミッションの表示](#)

複数のグループに属するユーザーの有効なパーミッションを表示します。

4. [このブランチに対してセキュリティを実施および構成する]を選択し、ブランチにアクセス可能なロール（グループ）を選択します。

ブランチ・セキュリティ

保存 | キャンセル | ヘルプ

現在、以下に対するセキュリティ設定を編集中です。デシジョン・サービス: loanvalidation-service、リリース: Winter1

- このブランチに対してセキュリティを実施しない
- このブランチに対してセキュリティを実施および構成する
- 親ブランチからセキュリティ構成を継承する: セキュリティは親ブランチで実施されていない

ブランチにアクセスできるグループの選択:

利用可能なグループ:	選択されたグループ:
rtsConfigManager rtsUser	Developer

親ブランチで既にブランチ・セキュリティが設定されている場合、親ブランチ と設定を一致させるために「親ブランチからセキュリティ構成を継承する」を選択することができます。

5. [保存]を選択すると、設定は完了です。

5.4. パーミッション

ブランチ・セキュリティーで設定したロール（グループ）に対して、パーミッションを設定していきます。パーミッションはブランチ・セキュリティーの設定が前提です。

ロールごとにプロジェクト・エレメントに対する作成・更新・表示・削除の権限を設定します。

パーミッションの注意点

定義済みロール（`rtsUser`、`rtsConfigManager`、`rtsAdministrator`）にはパーミッションを設定しないでください。これを行うと、以下の理由によりエラーが発生しやすくなります。



・すべてのユーザーは **Decision Center** にアクセスするために定義済みグループに属します。定義済みのグループとパーミッション・メカニズムの組み合わせは、混乱を招きやすくなります。

・一部の構成マネージャー機能は、そのパーミッションに関連しています。例えば、生成されたレポートは構成マネージャーが表示できるものに依存します。

当シナリオでは、ブランチ・セキュリティーで設定したロール「Developer」に対してパーミッションの設定を行います。

1. [構成]タブから[パーミッションの編集]を選択します。



構成

配布

ルール・セット・エクストラクターの編集

ルール・セットの生成に使用するエクストラクターのリストを表示、編集します

RuleApp の管理

RuleApp を管理し、RuleApp アーカイブを生成し、RuleApp を Rule Execution Server に配布します。

サーバーの管理

プロジェクトを配布するサーバーの作成、削除、および編集を行います

セキュリティー

ブランチ・セキュリティーの編集

現在のプロジェクト・ブランチのセキュリティー設定を編集します

パーミッションの編集

任意のグループのユーザーに付与するデータのアクセス権や変更権を変更します。

有効なパーミッションの表示

複数のグループに属するユーザーの有効なパーミッションを表示します。

2. パーミッションと追加する対象となるロール（グループ）を選択し、[新規]ボタンを押しま

す。

ホーム 検索 作成 クエリー 分析 プロジェクト 構成

構成 > パーミッションの編集

パーミッションの編集

パーミッションの保存 | キャンセル | 有効なパーミッションの表示 | ヘルプ

次のグループのパーミッションを編集中です。 Developer

このグループのパーミッションは定義されていません。

新規 編集 削除

3. 以下の値を選択し、[適用]ボタンを押し、パーミッションを追加します。

- ・パーミッション：作成/表示/更新/削除から選択します。
- ・値：はい/いいえから選択します。
- ・型：対象とするプロジェクト・エレメントを選択します。全てを対象とする場合は「*」を選択します。ガバナンス・フレームワークで使用する変更アクティビティと検証アクティビティを指定することも可能です。

パーミッションの保存 | キャンセル | 有効なパーミッションの表示 | ヘルプ

次のグループのパーミッションを編集中です。 Developer

このグループのパーミッションは定義されていません。

パーミッション 値 型 プロパティ

作成 はい * -

適用 キャンセル

4. パーMISSIONの追加を終えたら[パーMISSIONの保存]を選択します。[有効なパーMISSIONの表示]を選択すると、保存の前にパーMISSIONの内容を確認することができます。当シナリオでは「Developer」ロールに対して、作成/表示/更新のパーMISSIONを与えています。

パーMISSIONの編集

パーMISSIONの保存 | キャンセル | 有効なパーMISSIONの表示 | ヘルプ

セキュリティ設定が変更されました。「パーMISSIONの保存」をクリックして変更を保存してください

次のグループのパーMISSIONを編集中です。 Developer

アクション	パーMISSION	型	プロパティ	値
<input type="checkbox"/>	作成	*	-	はい
<input type="checkbox"/>	表示	*	-	はい
<input type="checkbox"/>	更新	*	*	はい

新規 編集 削除

※複数のパーMISSIONを設定し、互いに競合する内容であった場合、表の下の行にあるパーミ

ッションが優先されます。

5. [有効なパーミッションの表示]を選択し、対象のロール（グループ）を選択して[OK]ボタンを押します。



6. 各プロジェクト・エレメントに対するパーミッションが一覧表示されます。

ホーム 検索 作成 クエリー 分析 プロジェクト 構成					
構成 > グループの選択 > 有効なパーミッションの表示					loanvalidation-service > Winter1
次のすべてのグループに属するユーザーの有効なパーミッションを表示しています。Developer					
	表示	作成	更新	削除	
BOM	はい	はい	はい	はい	いいえ
名前	-	-	はい	-	-
グループ	-	-	はい	-	-
プロジェクト	-	-	はい	-	-
注釈	-	-	はい	-	-
フォルダー	-	-	はい	-	-
本文	-	-	はい	-	-
BOM から XOM へのマッピング	はい	はい	はい	はい	いいえ
名前	-	-	はい	-	-
グループ	-	-	はい	-	-
プロジェクト	-	-	はい	-	-

※ガバナンス・フレームワークで使用する変更アクティビティや検証アクティビティに対しても各プロパティ単位でパーミッションを設定することができます。

変更アクティビティ	はい	はい	はい	いいえ
名前	-	-	はい	-
注釈	-	-	はい	-
状況	-	-	はい	-
approvers	-	-	はい	-
owner	-	-	はい	-
targetDate	-	-	はい	-
authors	-	-	はい	-
検証アクティビティ	はい	はい	はい	いいえ
名前	-	-	はい	-
注釈	-	-	はい	-
状況	-	-	はい	-
approvers	-	-	はい	-
owner	-	-	はい	-
targetDate	-	-	はい	-
authors	-	-	はい	-

以上の設定によってリリース「Winter1」に対してブランチ・セキュリティーが有効となります。

「Developer」ロールが付与されたユーザー以外はガバナンス・フレームワークで「Winter1」を表示することができません。「Developer」ロールを有するユーザーはリリース「Winter1」に対して表示/作成/更新の権限を持ちます。削除権限はありません。更新権限を持つため、ルールへの編集作業が可能ですが、ガバナンス・フレームワークの制限に則る形となります。編集作業は変更アクティビティーで作成者として指定されたユーザーのみ可能です。

6. テスト・スイートの実行

Decision Center では、Enterprise Console と Business Console それぞれでテストの機能が提供されています。

V8.6 より Business Console でのテスト機能が提供され、ガバナンス・フレームワークで Business Console を離れずにテストを実行できるようになりました。

6.1 Business Console でのシナリオ・ファイルの準備

テストに使用するシナリオ・ファイルが用意済みでない場合は、テスト・スイートの作成前に、シナリオ・ファイルを準備します。

シナリオ・ファイルは Rule Designer、Enterprise Console、Business Console のそれぞれで作成することができます。ここでは、Business Console での作成手順を記述します。

1. テスト対象の意思決定サービスのリリースまたはブランチの、「テスト」タブを開きます。



The screenshot shows the Decision Center web interface. At the top, there is a navigation bar with 'Decision Center', 'ホーム', 'ライブラリー', and '作業'. Below this, the breadcrumb 'loanvalidation-rules >' is visible. A 'メイン' button with a star icon is present. The main content area has tabs for 'ルール', 'テスト' (selected), '配布', and 'スナップショット'. Under the 'テスト' tab, there are sub-tabs for 'テストスイート' and 'レポート'. A text block explains that running a test suite compares results with expected values. Below this, there are icons for adding (+) and deleting (-) items. A table with columns '名前' and '操作' is partially visible.

2. シナリオ・ファイルを生成（下向きの矢印のアイコン）を選択します。
3. シナリオ・ファイル名を入力し、テスト対象のデータ項目 および ファイルに含めたい実行の詳細の項目にチェックを入れます。
 - ・ファイル名



The screenshot shows the 'シナリオ・ファイルを生成' (Generate Scenario File) form. It includes a 'ダウンロード' (Download) button. The form contains the following fields:

- *ファイル名: リリース前テスト用シナリオ
- シナリオ・ファイル形式: Excel 2007 (タブ付き)
- ロケール: 日本語 (日)

At the bottom, there is a '操作:' field with the value 'miniloan_main'.

・テスト項目の選択

シナリオ・ファイルに含めるテストを選択します。

*テスト:

<input checked="" type="checkbox"/> フィールド	演算子
<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ローン申請	
<input checked="" type="checkbox"/> メッセージ	等しい (順序付けなし) <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 年利率	と等しい <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 年間返済額	と等しい <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 承認済み	と等しい <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 承認状況	と等しい <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 期間	と等しい <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 金額	と等しい <input type="button" value="+"/>

・予期した実行の詳細の選択

シナリオ・ファイルに含める予期した実行の詳細:

<input type="checkbox"/> フィールド	演算子
<input type="checkbox"/> 実行されたルールの数	以上である <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 実行されたルール・フロー・タスクの数	と等しい <input type="button" value="+"/>
<input type="checkbox"/> 実行されなかったルールの数	より大きい <input type="button" value="+"/>
<input type="checkbox"/> 実行されなかったルール・フロー・タスクの数	未済である <input type="button" value="+"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 実行されていないルールのリスト	含む <input type="button" value="+"/>

4. 画面内の右上の「ダウンロード」を選択すると、シナリオ・ファイルが生成され、ダウンロードが開始されます。



5. ダウンロードされたシナリオ・ファイルを編集して、テスト内容を準備します。

6.2 Business Console でのテストの実行

Decision Center Business Console を使用したテスト・スイートの作成・実行手順を記述します。

変更アクティビティでのテスト、検証アクティビティでのテスト

変更アクティビティの中と検証アクティビティの中と両方でテスト・スイートを実行することができますが、この2つは運用シナリオにあわせて使い分けることをお勧めします。



検証アクティビティは、リリース内のすべての変更アクティビティが完了していないと完了できません。1つのリリースに複数の変更アクティビティが含まれる場合に、検証アクティビティでのテストは全変更をあわせたリリース単位での検証を目的として実施します。一方で、変更アクティビティ内でのテストは、そのアクティビティでの変更の単体の検証を目的とします。

6.2.1 テスト・スイートの作成

1. テスト対象の意思決定サービスのリリースまたはブランチの、「テスト」タブを開きます。

The screenshot shows the Decision Center Business Console interface. At the top, there is a navigation bar with 'Decision Center', 'ホーム' (Home), 'ライブラリー' (Library), and '作業' (Work). Below this, the breadcrumb path is 'loanvalidation-rules >'. There are navigation icons for 'メイン' (Main) and a star icon. On the right, there is a 'スナップ' (Snapshot) button. Below the breadcrumb, there are four tabs: 'ルール' (Rules), 'テスト' (Test), '配布' (Distribution), and 'スナップショット' (Snapshot). The 'テスト' tab is selected. Below the tabs, there are two sub-tabs: 'テスト・スイート' (Test Suite) and 'レポート' (Report). Below the sub-tabs, there is a text description: 'テスト・スイートを実行すると、結果と予期していたものとが比較されます。シナリオ・データと予期した結果はシナリオ・ファイルに保管' (When you execute a test suite, the results are compared with the expected results. Scenario data and expected results are stored in scenario files). Below the text, there are two icons: a green plus sign (+) and a red minus sign (-). Below the icons, there is a table with two columns: '名前' (Name) and '操作' (Action). The '操作' column has a dropdown arrow pointing up.

2. 新規テスト・スイートの作成（「+」のアイコン）を選択します。

作成する新規テスト・スイートの内容（名前、エクセルのシナリオ・ファイル、レポート名、レポート内容）を入力します。

loanvalidation-rules > メイン >

初期リリース前テスト (v1.0) ☆

保存 保存して実行 キャンセル

* 名前: 初期リリース前テスト

テストするブランチ: メイン

操作: loanvalidation-rules操作

10 進数精度: すべて 10 進数 2 桁 - 小数点以下

サーバー: local RES

シナリオ

ファイル形式: Excel 2007 (タブ付き)

使用するファイル: testsuite01.xls 選択...

レポート

3. レポート名（レポート・ファイルの接頭辞）とレポートに含める内容を選択します。

レポート

* レポート名: Report

レポートに含める予期した実行の詳細: レポート出力値で Excel ファイルを作成

- 実行されたルールの数
- 実行されたルール・フロー・タスクの数
- 実行されなかったルールの数
- 実行されなかったルール・フロー・タスクの数
- 実行されてはいないルールのリスト
- 実行されてはいないルール・フロー・タスクのリスト
- 実行されたルールのリスト
- 実行されたルール・フロー・タスクのリスト
- 実行の期間 (ms)
- ルールのリスト
- ルール・フロー・タスクのリスト

入力後、画面内右上の「保存」を選択します。

rtsAdmin ?

保存 保存して実行 キャンセル

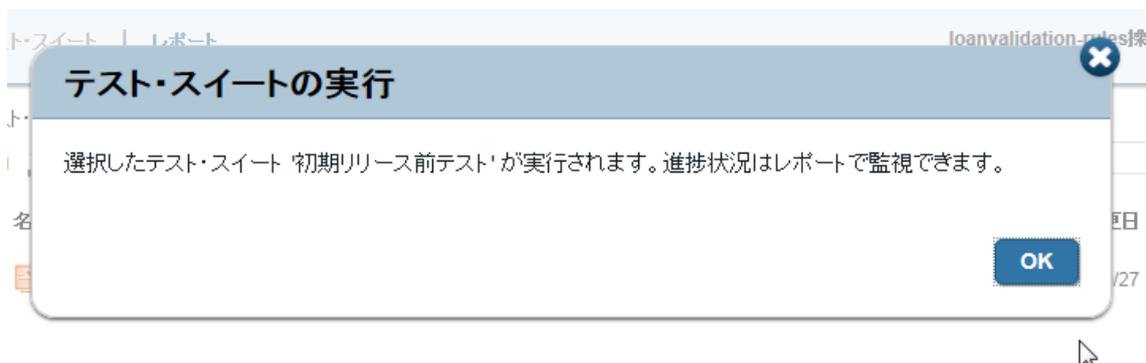
保存したテスト・スイートが一覧に追加されます。

6.2.2 テスト・スイートの実行

1. テスト・スイート名の左のチェックボックスを入力し、一覧の上部の「選択したテスト・スイートの実行」(右向きの三角形のアイコン) をクリックします。



実行のメッセージ・プロンプトが表示されます。



2. テスト完了後、テスト・スイートの一覧の「最近のレポート」からレポートへのリンクを選択し、結果を確認します。

シナリオ成功率が 100%となっていることを確認します。実行の詳細」欄で実行内容の詳細を確認します。

7. サーバーへの配布

開発したデシジョン・サービスをルール実行環境サーバー(Rule Execution Server)に配布します。Decision Center からのサーバー配布では Java XOM は配布できません。別方法でサーバーへ配布する必要があります。

RuleApp アーカイブのサーバー配布方法



ODM では RuleApp アーカイブのサーバー配布方法として複数の手法が提供されています。各手法については下記リンクの Information Center 「配布オプション」をご参照ください。
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/dmanager/v8r5/topic/com.ibm.wodm.dserver.rules.deploying/topics/tpc_res_deploy_options.html

7.1. サーバーの管理

開発したデシジョン・サービスの配布先となるルール実行環境サーバー(Rule Execution Server)を設定します。テスト・スイート実行の際にも同様にルール実行環境サーバーの設定が必要です。

1. 管理者権限を有するユーザーで Enterprise Console へログインします。[構成]タブから[サーバーの管理]を選択します。

ホーム 検索 作成 クエリー 分析 プロジェクト 構成

構成

配布

[ルール・セット・エクストラクターの編集](#)
ルール・セットの生成に使用するエクストラクターのリストを表示、編集します

[RuleApp の管理](#)
RuleApp を管理し、RuleApp アーカイブを生成し、RuleApp を Rule Execution Server に配布します。

サーバーの管理
プロジェクトを配布するサーバーの作成、削除、および編集を行います

2. [新規]をクリックします。

ホーム 検索 作成 クエリー 分析 プロジェクト 構成

構成 > サーバーの管理

サーバーの管理

新規 | 編集 | 削除 | テスト | ヘルプ

サーバーが見つかりません

3. 「サーバーの作成」画面では下記の RES(Rule Execution Server)情報を入力して[OK]ボタ

ンを押します。

- ・名前：サーバーの名称を指定します。実際のサーバー名である必要はありません。
- ・URL：RES に接続するための URL
- ・ユーザー名/パスワード：RES の管理ユーザーのユーザー名/パスワード
- ・使用法：[Rule Execution Server]を選択します。目的を特定することも可能です。
- ・許可されているグループ：作成するサーバーを利用可能なグループ（ロール）を指定することができます。

サーバーの作成

名前*

URL*

ユーザー名

パスワード

説明

使用法

Event Runtime

Rule Execution Server

- テスト・スイートとシミュレーションの実行
- RuleApp の配布
- 両方

許可されているグループ

すべてのグループ

4. 対象サーバーをチェックし、[テスト]をクリックすることで接続テストを行います。接続に成功したらサーバー設定は完了です。

ホーム 検索 作成 クエリー 分析 プロジェクト 構成

構成 > サーバーの管理

サーバーの管理

新規 | 編集 | 削除 | **テスト** | ヘルプ

名前	URL
<input type="checkbox"/> MyTestServer	http://localhost:9084/res

7.2. Business Console での配布構成の作成

配布構成を設定することで、Business Console からテスト時や完了後のリリースを配布することができます。配布構成の作成、編集、削除の操作は、管理者（`rtsAdministrator` の権限をもつユーザー）のみが実行できます。また、ガバナンス・フレームワーク実施中は、配布構成の作成と編集は変更アクティビティの中で実施できます。

配布構成の設定では、RuleApp 名、配布対象の操作、実行環境サーバー、ルール・セット・プロパティ、バージョン・ポリシー、実行可能なユーザー・グループ、スナップ・ショット作成の有無等を定義します。

※予め Enterprise Console にて実行環境サーバーの設定を行っておく必要があります（7.1 参照）。

配布構成の作成を実施するタイミング

配布構成の作成は管理者（`rtsAdministrator` の権限をもつユーザー）のみが実行できますが、通常はビジネス・ユーザーには強い管理者権限を付与せずに運用するべきです。そのため、必要な配布構成は、管理者権限をもつ IT ユーザーが初期リリース後にまとめて作成しておくことをお勧めします。その場合、ビジネス・ユーザーが配布を実行できるように、配布構成の「グループ」タブでビジネス・ユーザーを含むグループを設定します（`rtsAdministrator` 以外の `rtsUser` などのグループを選択する場合はあらかじめ Enterprise Console の「インストール設定ウィザード」で設定する必要があります）。



1. 新規配布構成の「全般」タブで、構成の名称、非実稼動／実稼動のタイプ、RuleApp の名称、プロパティなどを設定します。

loanvalidation-service > メイン >
 新規配布構成

全般 操作 ターゲット ルール・セット・プロパティ グループ 配布スナップショット

* 構成名:

* RuleApp 名:

構成タイプ:
 非実稼働 実稼働

* RuleApp の基本バージョン番号:

保存先:
loanvalidation-service

▶ RuleApp プロパティ

構成記述:

for ITa environment.

その他、各タブを開いて必要な設定を行います。

- ・「操作」タブで配布対象の操作を選択します。
- ・「ターゲット」タブで配布対象の実行環境サーバーを選択します。
- ・「ルール・セット・プロパティ」タブで、基本バージョン番号とバージョン・ポリシーを選択します。
- ・「グループ」タブで配布操作を実行するユーザーのグループを選択します（ここで **rtsAdministrator** 以外のグループを指定するには、あらかじめ **Enterprise Console** の「インストール設定ウィザード」で設定しておく必要があります）。
- ・「配布スナップショット」タブで配布時のスナップショット作成の有無を選択します。

2. 設定の入力後、右上部の「保存」を選択します。

loanvalidation-service > メイン >
 新規配布構成

 保存  キャンセル

全般 操作 ターゲット ルール・セット・プロパティ グループ 配布スナップショット

配布時に配布スナップショットが必要かどうかを選択してください。

3. 配布構成が作成されます。

loanvalidation-service > [メイン](#) ☆

スナップショットの取得 配布 タイムライン 詳細

検索: ルールを検索します

ルール テスト **配布** スナップショット

構成 | レポート

このブランチを配布するには、リストされた構成を使用するか、または新規作成してください。

+

名前	タイプ	操作	ターゲット・サーバー	グループ
<input checked="" type="checkbox"/> Pre-Production Deployment	非実稼働	loanvalidation-rules操作	local RES	

7.3. Business Console からサーバーへの配布

構成済みの配布構成を利用してサーバーに RuleApp アーカイブを配布します。

1. 意思決定サービスのリリースまたはブランチの画面で「配布」タブを表示します。

loanvalidation-service > [メイン](#) ☆

スナップショットの取得 配布 タイムライン 詳細

検索: ルールを検索します

ルール テスト **配布** スナップショット

構成 | レポート

このブランチを配布するには、リストされた構成を使用するか、または新規作成してください。

+

名前	タイプ	操作	ターゲット・サーバー	グループ
<input checked="" type="checkbox"/> Pre-Production Deployment	非実稼働	loanvalidation-rules操作	local RES	

2. 使用する配布構成のチェックボックスを選択した状態で、上部の「配布」アイコンを選択します。

loanvalidation-service > [メイン](#) ☆

スナップショットの取得 **配布** タイムライン 詳細

検索: ルールを検索します

ルール テスト **配布** スナップショット

構成 | レポート

このブランチを配布するには、リストされた構成を使用するか、または新規作成してください。

+

名前	タイプ	操作	ターゲット・サーバー	グループ
<input checked="" type="checkbox"/> Pre-Production Deployment	非実稼働	loanvalidation-rules操作	local RES	

3. リリース/ブランチの配布のプロンプトで、配布先やバージョン番号を確認し、「配布」を選択して配布を実行します。

メインの配布

ブランチの配布方法を指定します。

配布構成:

Pre-Production Deployment

ターゲット:

- サーバー
local RES
 RuleApp アーカイブ

ルール・セット・バージョン:
ルール・セットのマイナー・バージョン番号のインクリメント。

RuleApp: LoanvalidationServiceRuleApp/1.0

ルール・セット	基本バージョン	最新の配布バージョン	新規バージョン
loanvalidation_r...	1.0	該当なし	1.0

*配布スナップショット名:

Pre-Production_Deployment_2014-12-14T21_40_20Z

配布 キャンセル

※配布のターゲットに「RuleApp アーカイブ」を選択して、RuleApp アーカイブ・ファイルのダウンロードのみを実行することもできます。

3. 配布レポートで、状況が「成功」となっていることを確認します。

Loanvalidation service > Spring Release >

 レポート 2014-11-07_09-40-08

要約

配布の内容: ✔ 成功
Spring Release
Loanvalidation service 内

構成名: _____ ターゲット・サーバー: _____

8. 参考資料

・ IBM Knowledge Center | IBM Operational Decision Manager 8.6.0

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSQP76_8.6.0/

・ IBM developerWorks Japan : Decision Management

<http://www.ibm.com/developerworks/jp/websphere/category/bpm/index.html>